2012年度　年　報
－自己点検･評価報告書－

天 使 大 学　 看 護 栄 養 学 部
天使大学大学院看護栄養学研究科

はじめに

本学では、2011 年度に大学基準協会より適合認定校と判定されましたが、更なる教学の発展に向けて自己点検評価委員会を中心に、各委員会の活動点検評価を行っております。

これまで年報で掲載してきました教員の教育研究活動は、2012 年度年報からその内容を別途、ホームページで公表することとし、年報では教学組織に関連する活動と内容を掲載することに致しました。

教学組織に関する主な活動は、委員会活動を中心に行っておりますが、加えて学長直轄プロジェクトを設置し、その時代や情勢を考慮し柔軟な取り組みを行う新たな活動を行っております。

本学の看護職、管理栄養士を育成する大学として、社会に期待される人材育成のための教育環境を整えるために、現状を客観視し、他者の厳しい評価を頂くためにも、年報の役割は大きいと考えております。

本報告書をご高覧頂き、ご指摘、ご指導頂くことによって、教職員一同鋭意努力して参りたいと考えております。

日頃、多くの皆様方に支えられて運営しておりことを、心から感謝申し上げます。今後とも、皆様方のご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

2013 年 9 月

天使大学

学長　丸山知子

自己点検・評価報告書

目　　次

Ⅰ．教育課程 …… 1
　１．看護学科 …… 1
　２．栄養学科 …… 3
　３．教養教育科 …… 5
　４．看護栄養学研究科 …… 8
Ⅱ．学生の受け入れ …… 10
Ⅲ．教員組織 …… 12
Ⅳ．研究活動・研究環境 …… 13
Ⅴ．ＦＤ活動等 …… 15
Ⅵ．社会貢献 …… 16
Ⅶ．学生生活 …… 21
Ⅷ．就職支援 …… 24
Ⅸ．図書館 …… 26
Ⅹ．情報処理システム …… 27
Ⅺ．施設・設備 …… 28
Ⅻ．管理運営 …… 29
ⅩⅢ．財務 …… 30
ⅩⅣ．事務組織 …… 31
ⅩⅤ．自己点検・評価活動 …… 32

Ⅰ．教育課程

１）看護学科

担　当：　看　護　学　科

本年度の活動目標	１．2009 年度・2012 年度カリキュラムの運用・点検・評価 ２．学生支援の促進と評価 ３．教育指導体制の充実
活動内容の評価	１．カリキュラムの実施、充実に向けての点検・円滑な運用・評価 １）2009 年度入学生カリキュラム：２・３・４年生 ・本カリキュラムの主な変更点は、保健師教育課程の指定規則変更に伴い地域と在宅を独立させ講義演習・実習単位数が増加したこと、健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅰ・Ⅱを編成したことである。 ・卒業前のアンケート結果から、カリキュラムの変更に伴い４年次の実習前の科目展開に関する意見（過密）が多くあった。また、自習室等の学習に必要な施設不足に対する意見がみられた。その他の評価結果から全体的には４年次のレベル目標は概ね達成できたと評価する。 ２）2012 年度カリキュラム：１年生 ・本カリキュラムは看護師教育に特化したことが特徴である。 ・アンケート結果から「キリスト教的人間観に基づく人間理解」等については評価が低かった。また、１年前期の過密さや「人間形成とキャリアデザインⅠ」の目的・意義の浸透が課題となった。しかし、その他のアンケート結果から、看護への関心や学生支援教員についての評価は高く、１年終了時レベル目標は概ね達成できたと評価する。 ３）カリキュラム検討委員会関連の課題・運用・評価 ・カリキュラム委員会の今年度の課題は、①実践力強化と②主体的な学習行動や判断力育成があげられた。①はレベル終了時の目標を設定し、各レベルに該当する教科目配置について学科の合意を得ることができ課題は達成できたが、卒業生の特性とレベル目標については、今後見直しが必要であることが明らかになった。②については、今期の学生の状況（カリキュラム過密）や教員体制の状況から新たに取り組むことは困難と判断し行っていないため、目標は達成されなかった。 ・正課科目や正課外（チャペルアワーやアッセンブリアワーの活用、自校教育等）のあり方については検討できなかった。今後は、学部ワーキンググループを設置するなど、全学的に意見交換をしていくことが必要であると考える。 ２．学生支援の促進と評価 ・少人数制学生支援体制を継続し１年８名、２年７名、３年５名、４年４名の支援体制を組み、各教員と連携を図りながら学習支援を行った。学習不振者（休学等の対応を含む）への指導についてもタイムリーに領域教員と連携しながら対応できたと考える。 ・学習支援プロジェクトは、看護師保健師国家試験に向けて到達度テスト導入による自分の状況把握、学習ガイダンスの継続により学習への動機付けを行い、プロジェクトの活動の意義があったと考える。しかし、国家試験結果との関連については判断しきれない。また、年度末には学生の実習状況を共有し今後の対応を検討したことは、次年度の実習準備の機会となったと評価できる。

	３．教育指導体制の充実 ・実習や演習で実習指導教員の協力を得ながら行っている。各領域では研修会等で指導能力強化のための取り組みをしており、実習指導能力向上に役立っていると考える。 ・臨床指導者との協働・連携については、指導者会議や各領域でのオリエンテーションを通して指導体制を共有し指導力の強化を図っている。また、2012 年度は「実習におけるインシデントの経験には看護力向上の鍵がある」をテーマにシンポジウムとグループワークを行った。参加者からは肯定的な評価が得られ、インシデントの背景、未然に防止策についても話し合う機会になったことから、研修会の目標は達成された。 ・2012 年度は定員 32 名中、実働教員 29 名であったが実働 26 名で３名が欠員であったことから十分な教員配置ではなかった。 ４．その他の活動結果、卒業生の状況 １）他大学との連携 ・日本看護系大学協議会、私立看護系大学協議会、北海道看護教育協議会、保健師教育機関協議会に会員として参加し、学科に周知・活用した。 ・北海道薬科大学との連携として、「看護学概論」を領域責任者７名で担当した。 ２）後援会協力事業への協力として釧路と札幌地区の父母懇談会に参加した。 ３）看護学科の文部科学省の科学研究費補助金獲得（研究代表者）は、継続４件、新規２件の計６件であった（2011 年度は新規４件）。 ４）卒業生の状況 ・国家試験は看護師・保健師各１名不合格で、看護師 98.8%、保健師 98.8%であった。 ・2007・08 入学生は、前期５名、後期１名、計６名が卒業した。 ・2009 年度入学生は、カリキュラム完成年度を迎え、80 名が卒業した。
次年度への課題	１．カリキュラムの実施・充実：教育目標達成に向けた教育を行う。 ・2009 カリキュラム：３年次終了前に４年次実習前に必要な自己学習の必要性を促す。また、自習室の整備を行う ・2012 カリキュラム：「人間教育とキャリアデザインⅠ・Ⅱ」の目的意義の浸透を図る。また、新規開始の老年看護学臨地実習Ⅰの円滑な実施を図る。 ・カリキュラム移行期に伴う科目展開の円滑な実施：「生と死の看護ゼミ」２・３年開講 ・学科カリキュラム検討委員会の計画的な検討、学部カリキュラム検討グループの設置検討 ２．学生支援活動の充実を図る：学生の主体的な学習への支援、学習不振者（実習、教科等）への対応について当該領域教員や学生支援教員との綿密な連携の継続と強化 ３．教育指導体制の充実を図る：年度早期に欠員補充、実働教員確保
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

Ⅰ．教育課程

２）栄養学科

担　当：　栄　養　学　科

本年度の活動目標	１．教育理念の推進に関わる正課外教育の在り方について検討を加え、改善を図る。 ２．専門教育の質的保証を図るために、管理栄養士ガイドラインに基づく教育内容の充実、学生による授業評価結果の活用について検討し、質的改善に役立てる。 ３．編入学生の履修指導及び卒業研究履修者の増加に対して適切な指導体制をとる。 ４．臨地実習の指導体制及び実習施設との連携を強化する。 ５．管理栄養士国家試験対策講義、模擬試験等を計画、実行する。
活動内容の評価	１．各学年の支援教員を中心に、修養会、ステップアップセレモニー等の内容について検討、立案し、学科会議での審議を経て共通理解が図られている。とくに修養会に関しては、学生の参加は相当数（1 年 86 名、2 年 82 名、3 年 57 名、4 年 67 名）に達しており、一定の成果が得られていると評価できる。 ２．授業の実施状況は資料１のとおりである。 授業内容に関しては、管理栄養士国家試験出題基準（2010 年 12 月公表）について学科で確認し、それに準じてシラバスを作成すること、また国家試験対策講義を実施するという点で共通理解をもつように図られているが、実態について学科全体での確認作業は行われていない。学生の授業評価の活用についても各教員に一任され、学科としての活用は検討されていない。 ３．個々の編入学生（5 名）の履修指導については、支援教員と教務委員が連携して行った。卒業研究履修者（64 名）の指導については、卒業研究 WG と卒業研究指導教員が連携して行った。いずれも学生の円滑な履修を実現することができた。 ４．臨地実習の実施状況は資料２（番号確認と掲載可否検討）のとおりである。 各領域の臨地実習担当教員と担当助手が連携し、事前・事後の学生指導や関連する事務手続きを円滑に進めることができた。臨地実習施設との連携強化を図るため、2012 年度も講演会・意見交換会を企画し、実行した（参加者数 56 名）。 ５．国家試験対策 WG と 4 年次支援教員が中心となり、対策講義、模擬試験を計画し、実行した（資料３）。各回の講義への出席状況、模擬試験の受験、成績の状況を学生毎に確認し、個別指導に反映させた。 ６．進級ならびに卒業の状況については、2 年次進級 93 名（在籍 94 名）、3 年次進級 85 名（在籍 88 名）、4 年次進級 85 名（在籍 86 名）、卒業 90 名（在籍 93 名）であった。 留年者、休学者、退学者への対応は支援教員、教務委員、学科長が連携して行った。
次年度への課題	１．教育課程が相当過密状態にある中で、正課外教育のあり方について検討する。 ２．専門教育内容について、管理栄養士ガイドラインに基づき、学科全体で確認を図る。 ３．学生による授業評価の活用について、学科として検討する。 ４．2014 年度入学者から管理栄養士国家試験の日程が早まることを踏まえ、教育課程上の課題を抽出、検討を開始する。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

Ⅰ．教育課程

２）栄養学科－教職課程

担　当：　教職課程委員会

本年度の活動目標	１．新規科目「教職実践演習」実施に向けての具体的準備 ２．教員採用試験の受験支援の強化 ３．外部との連携による教育の充実 ４．履修カルテ活用に関する検討と個別面談による支援強化
活動内容の評価	１．2012 年度から新規開講の「教職実践演習」について、昨年度に引き続き実施計画を立案・検討し、具体的な実施計画とシラバスを策定するに至った。目標を達成した。 ２．平成 25 年度北海道・札幌市教員採用試験の受験支援を、外部講師を含めて行った。その結果、ここ数年、２～４名で推移してきた登録者が７名と大幅に増加する成果をおさめ、目標を達成した。 ３．外部との連携による教育の充実については、以下の二つを実施した。 １）農場実習と調理実習：１年生を対象に、北海道大学農学部農場において、田植え、稲刈り等の農場実習、および収穫野菜の調理実習を実施した。また、それを通してレシピ集作成も行った。参加学生にはきわめて有意義であったと評価され、目標を達成した。 ２）学校インターンシップ：２年生を対象に、札幌市立美香保小学校および新琴似小学校において、本学夏休み期間中に実施、17 名が参加した。報告書集の作成も行った。参加学生にはきわめて有意義であったと評価され、目標を達成した。 ４．履修カルテ（注）については、学生にとってよりわかりやすいように改善した。また、履修カルテを利用した個別面談を実施した。個別面談では、個々の学生の進度や悩みを知り、アドバイスすることができ、成果があった。 （注）履修カルテは、教職課程において習得すべき事項に関する達成度の学生による自己評価欄と教師による意見･アドバイス欄からなる。個々の履修生ごとに作成される。 以上、４項目の活動目標はいずれも達成された。
次年度への課題	１．「教職実践演習」の開講・実施と検討：新規開講する同科目について、計画にしたがって実施するとともに、計画の適否の検討、修正を行う必要がある。 ２．他の活動項目については、より効果的な内容へのさらなる改善が必要である。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題について「より効果的な内容へのさらなる改善」の内容を具体的、明確にして取り組むよう要望します。

Ⅰ．教育課程

３）教養教育科

担　当：　教養教育科

本年度の活動目標	初年次教育の観点から見た教養教育の充実を推進する。 １．英語教育の検証をする。 ２．基礎学修演習の充実を計る。 ３．現行カリキュラムの見直しをする。
活動内容の評価	１．英語教育の検証 **2011** 年度同様、英語科目を履修する **1** 年生に対して到達度試験（アチーブメントテスト）を前期末、後期末にそれぞれ **1** 回ずつ実施し、学習到達度評価を行った。前年度に引き続き、全体で平均点が **17** 点（**300** 点満点）上がるなど、教育の効果が見られた。とくに基礎クラスを履修する学生の間で効果が顕著に見られた。**(**別紙**1)** ２．基礎学修演習の充実 １）現在の授業展開に合わせるため、教科書（木下是雄『理科系の作文技術』中公新書 1981）を脱して、学生に合った独自の配布資料を作成して充実を図った。 ２）グループ間の格差を是正するため担当者を固定しない方法をとり、標準化を図った。 上記の結果、前年度より学生は形式の整ったレポートを書けるようになった。 ３．現行カリキュラムの見直し 学部全体の改訂と足並みを揃えるため中断した。そのため、以下の問題点のみの指摘に留まった。①履修し易い時間割、②卒業要件単位数ぎりぎりの履修登録、③教養教育科目との専門科目との関連付け（英語関連科目、専門基礎科目）など ４．入学前教育（専門基礎科目としての生物学・化学）の担当（新規） 初年次教育等ワーキンググループの答申を受けて、教養教育科でその業務を引き受けた。本年度看護学科のみで実施された入学前教育と形態機能学との連携に対して評価が行われた。その結果、入学前教育で課したレポートが入学後に当該科目に対する学生の興味関心を増すことが確認できた。
次年度への課題	１．現在、英語プレイスメントテスト及び英語到達度試験（アチーブメントテスト）は G-TELP（Level 4）を用いて実施されているが、プレイスメントテストで成績が上位だった学生にはレベルが低く、学習到達度評価を的確に行えない可能性が表面化したため、成績上位者の測定が課題である。 ２．毎回担当者が変わることによって学生が授業を受け難い環境となった。授業内容の担当者間での共有とグループ学習の効果を上げる方策を検討する。 ３．入学前教育から初年次教育を担当することにより教養教育との関連付けの効果を検証し、あわせて天使大学三大方針と科の教育課程との関連を再確認する。また、教養教育科の教育課程に沿い、学生の履修しやすい時間割を検討する。さらに、栄養学科編入学生の入学後の教養教育科の履修とその時間割編成についても検討をする。 ４．入学前教育（生物・化学の復習）から初年次教育（診断テストとそれに基づく履修指導および専門基礎科目と連携）への橋渡しを強化する必要が生まれた。

自 己 点 検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

別紙　1

1．2012 年度「プレイスメントテスト」「前期アチーブメントテスト」「後期アチーブメントテスト」の結果

＜平均点：看護栄養学部全体　受験者 188 名（看護 97 名、栄養 91 名）＞

	プレイスメントテスト（4 月）	前期アチーブメントテスト（7 月）	後期アチーブメントテスト（12 月）
文法（100 点満点）	73.7	80.2	78.6
リスニング（100 点満点）	52.2	61.3	59.3
リーディング（100 点満点）	64.8	65.6	69.9
合計（300 点満点）	190.7	207.0	207.8

2．プレイスメントテスト結果：過去 5 年間の比較表

＜平均点：看護栄養学部全体＞

年度	2009	2010	2011	2012
受験者数	177	174	181	193
平均	191.5	193.2	194.8	190.7
標準偏差（N）	36.467	40.268	41.117	40.118
標準偏差（N-1）	36.571	40.384	41.231	40.223
分散（N）	1329.876	1621.496	1690.580	1609.485
分散（N-1）	1337.433	1630.869	1699.972	1617.868
最小値	85	80	90	90
中央値	195	200	200	195
最大値	265	270	275	260
範囲	180	190	185	170
第１四分位	165	165	165	160
第３四分位	220	225	225	225
歪度	-0.303	-0.456	-0.364	-0.432
尖度	-0.440	-0.206	-0.472	-0.702
変動係数	0.190	0.208	0.211	0.210

Ⅰ．教育課程

４）看護栄養学研究科

担　当：　看護栄養学研究科

本年度の活動目標	１．収容定員に対する在籍学生比率の向上に向けての活動の強化 ２．2011 年度改正カリキュラムの円滑な運用と評価 ３．大学院看護栄養学研究科の合同 FD の実施 ４．看護栄養学研究科のアドミッション・カリキュラム・デプロマポリシーの作成
活動内容の評価	１．収容定員に対する在籍学生比率向上のために以下の活動を実施した。 ・14 条特例適用科目の適正配置により、社会人にも学びやすい教育環境を整備した。 ・長期履修制度の申請から入学までの手続きを明確化、透明化したことで、ニーズの掘り起こしと円滑な推進が可能となった。 ・博士前期・修士課程の授業料の引き下げ、奨学金制度の充実について、天使大学ホームページのトップページ（インフォメーション）で広報を行った。 ・学部生に対して大学院進学に対する意識づけのための説明会を実施した。また、天使祭において大学院相談コーナーを設置した。臨地実習指導者や卒業生に学校案内や大学院パンフレット、募集要項の配布を行った。 ・2013 年度入試の結果、看護学専攻修士課程ホスピス緩和ケア看護学コース２名、公衆衛生看護学コース２名、栄養管理学専攻博士前期課程３名、博士後期課程１名の入学が確定した。これによって、収容定員に対する在籍学生比率は、栄養管理学専攻博士前期課程 1.0、博士後期課程 0.17 となる。また、２名の科目等履修生の受け入れが決定した。看護学専攻修士課程では 0.5 となり、両専攻とも増加傾向にある。 ２．2011 年度改正カリキュラムの円滑な運用のために以下の内容を実施した。 ・14 条特例により夜間および土曜開講も行い、社会人が学びやすい時間割を提供した。 ・共通科目の統計学特論は両専攻院生が学びやすい土曜日に開講した。 ・2012 年度９月、博士後期課程修了生１名が博士（栄養学）の学位を取得し、３月には、前期課程修了生１名が修士(栄養学)ならびに栄養教諭専修免許状を取得した。本専攻としては、第１号である。また、看護学専攻修士課程修了生２名（ホスピス・緩和ケア看護学コース）が修士（看護学）を取得した。 ３．大学院看護栄養学研究科の合同 FD を実施した。 ・これまで専攻ごとに実施していた FD を研究科合同開催として、「研究デザインの基礎知識と批判的吟味」「フィンランドの公衆衛生と保健医療サービスの現状」と題した２回の研修会を実施した。大学院教員はもとより、学部教員、院生・卒業生など、多数の参加を得、研究意識の高揚ならびに公衆衛生の理解に繋がった。 ４．認証評価結果の努力課題であった看護栄養学研究科共通のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、デプロマポリシーを作成した。
次年度への課題	１．2011 年度改正カリキュラムの評価（共通科目、各専攻の科目設定、内容等の見直し） ２．特別研究の単位について、単位認定と論文審査に係る配分の見直しを図る。 ３．栄養管理学専攻では、選択科目が全て隔年開講であるため、効果的な学習プロセスの観点から、毎年の開講を検討する。 ４．看護学専攻では、新たな専門分野・専門看護師コースの増設について検討する。 ５．看護栄養学研究科としての特色を活かした実践・研究能力の向上を目指した科目の検討をする。

自 己 点 検 評価委員会 からの評価	柔軟なカリキュラム運営により、履修しやすい環境を整えたことは評価できます。 認証評価機構の評価結果を踏まえ、具体的な方策の取り組みを今後、期待します。

Ⅱ．学生の受け入れ

担　当：　広報委員会

本年度の活動目標	１．本学の教育的特徴・優位点を分かりやすくインパクトのある形で伝えるため、効果的な PR 媒体を活用する。 ２．効果的・効率的な学生募集広報を企図するとともに、教職員の協力体制を整備する。 ３．助産研究科・看護栄養学研究科・栄養学科編入学試験の学生募集広報を強化する。
活動内容の評価	１．Web サイトのリニューアルに向けたプレゼンテーションを行い、2013 年度から本学 Web サイトの制作・管理を委託する業者を選定した。「ユーザビリティの高い Web サイト」を最重要コンセプトに掲げ、リニューアルに向けた制作作業を進めたことは評価できる。また、大学案内パンフレットのリニューアル、大学紹介 DVD の作成など、本学の特徴が明確に伝わる、インパクトのある PR 媒体の活用を図ったことは評価できる。 ２．全専任職員による高校訪問の協力体制を構築できた点、進学相談会の手引き、高校訪問の手引き等のマニュアルを整備した点は大いに評価できる。 ３．助産研究科の広報については、道内看護系大学 4 校を訪問し、本研究科を PR した点、リスティング広告を強化した点、6 月に新たにミニオープンキャンパスを開催した点（11 名参加）は評価できる。看護栄養学研究科の広報については、長期履修学生制度、夜間開講等、働きながらでも学びやすい環境が整っていることを Web サイト等を通じてアピールした点、リスティング広告を強化した点、新たに公開授業を開いた点は評価できる。また、栄養学科 3 年次編入学試験の広報については、今年度から 6 月に編入学試験説明会を開催した点（7 名参加）、ここ 2 年間定員を満たしている点は大いに評価できる。ただし、助産研究科、看護栄養学研究科はいまだ定員を満たしていなく、今後さらなる広報的施策を講じる必要がある。
次年度への課題	１．看護栄養学研究科ページの改善、動画の効果的な掲出等をポイントとして、本学 Web サイトの改善をさらに進める。 ２．看護栄養学研究科の定員確保のため、有効な広報施策を実行する。 ３．志願者確保のため、広報活動の重要性を全教職員に周知し、より一層協力体制を整える必要がある。特定の教職員に過重な負担がかかっている現況を解消し、広報活動を全学的に行う機運を高め、負担の平準化を目指す。
自己点検 評価委員会 からの評価	特に課題の全学的な教職員に対する広報活動への協力の求め方、方法、さらには広報活動体制の検討を期待します。

Ⅱ．学生の受け入れ

担　当：　入試委員会

本年度の活動目標	１．一般入学試験 入試ミス防止策を励行する。 ２．栄養学科の推薦入学試験の定員（45 名）を変更し、学科定員の 5 割以内に変更する。 ３．個人面接試験の評価方法・評価スキルをブラッシュアップする。 ４．一般入学試験学科試験の得点調整方法を見直す。 ５．入学試験選抜制度の見直し、指定校推薦入学試験による入学者の評価方法、一般入学試験学科試験採点業務の省力化について検討する。
活動内容の評価	１．2011 年度途中で入試問題各科目の「第三者点検者」を 1 名から 2 名に増員し、出題者・第三者点検者による入試問題校了直前期の「合同の入試問題検討会」を開催するなど、ミス防止に向けた体制を整え、2012 年度にはさらに外部機関による入試問題の「事前チェック」を導入した。この導入はミス防止効果に止まらず、問題文の表現等で出題者にとっても大いに参考となった。 ２．大学基準協会から「栄養学科の推薦入学試験の定員（45 名）が学科定員（85 名）の 5 割を超過している」との指摘を受け、栄養学科の推薦入学試験の定員を「45 名⇒42 名」、一般入学試験の定員を「30 名⇒33 名」に変更した。大学基準協会の指摘に即座に対応したことは評価できる。 ３．2012 年 8 月 7 日（火）に外部講師を呼び、「個人面接試験で受験者を正しく評価するための手法」というテーマで講演を行うとともに、その講演内容や 2011 年度の評価結果を踏まえ、アドミッション・ポリシーに適った学生を適切に評価できるように「個人面接評価項目」等を修正した。個人面接試験の評価方法・評価スキルを継続的にブラッシュアップしたことは評価できる。 ４．本学一般入学試験にとってより妥当な得点調整方法を入試委員会で検討を重ね、各科目間（「国語」「数学Ⅰ・数学 A」の間、「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」の間）で、原則として 20 点以上の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合に、「標準得点方式」による得点調整を行うことに変更した。説明しやすく、より適切な得点調整方法に変更したことは評価できる。 ５．入学試験選抜制度の見直しは基礎資料の作成にとどまった。指定校推薦入学試験による入学者の評価方法については、学籍上の変更（留年、休学、退学）が生じた指定校推薦入学者への対応を決定した。一般入学試験学科試験採点業務の省力化については、今年度からすべての科目を記号解答とし、採点が簡略化されたことは評価できる。
次年度への課題	１．入学試験選抜制度の現状について、入試種別ごとの学生の追跡調査の実施、その結果に基づく入試種別ごとの定員、入学試験科目等の見直しについて検討を始める。 ２．とくに指定校推薦入学試験による入学者については 2013 年度に調査を行い、この試験の内容と指定校との連携のあり方について、一定の結論を出す。 ３．一般入学試験学科試験採点業務の一層の省力化を図るため、出題者への作問上の技術的な協力依頼を徹底する。 ４．学習指導要領変更に伴う本学の入学試験科目の変更（理科、数学）について、2013 年度の早い段階で確定し、周知に努める。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

Ⅲ．教員組織

担　当：　自己点検評価委員会

本年度の活動目標	１．大学基準協会の認証評価の「教育研究組織としての適切性の検証を行うべき組織の体制」について検討を行う。 ２．教員組織について、配置についての見直しを行う。
活動内容の評価	１．教育研究組織としての適切性の検証を行うべき組織の体制の検討について 大学の教員組織については、認証評価の際に「教育研究組織としての適切性の検証を行うべき組織の体制が望まれる」との指摘があり、自己点検委員会を含めどのような組織とするか検討を行った。 ２．教員組織について （１）将来構想検討委員会においては、本学園の人材養成の目標を踏まえた人事計画に基づき、将来構想と教学組織、事務局組織が目的に沿った適時適切な編成を行うこととし、毎年の人事方針と人事配置は、これを踏まえ実施するものとし、看護栄養学部教員数は原則 67 名以内で収容定員数の増加に応じて別途検討すること、また大学院助産研究科については原則 15 名以内とすることが検討された。 （２）学園としては、看護栄養学部の定数 67 名については、教養教育科７名、看護学科 32 名、栄養学科 28 名としていたが、教育現場の実情から定数内で変更することとし、当面の間、看護学科 33 名、栄養学科 27 名として改善を行った。 （３）人員の確保については、特に看護学科では定年退職者を含めた８名の退職者があり、教員の定員確保が課題となる。専任教員、嘱託教員の募集を積極的に行っているが、来年度以降、札幌市内においても　看護系大学の新設・増設が予定されているなど、大学を取り巻く環境を考えると教員の確保は一段と厳しい状況が予想される。教育の質保証のためには学科内での連携がいっそう求められている。 （４）なお、教員の採用方針については、建学の理念とともに教員の年齢構成に配慮しながら、専任教員と嘱託教員のバランスをとりながら採用する必要があり、現行の教員採用の選考委員会のあり方など教員採用の手続きについて検討する必要がある。
次年度への課題	１．教育研究組織の適切性については、教育の質保証の観点から、教育内容と教員の研究環境の充実のあり方に配慮しながら定期的に保証する。 ２．教員組織については、将来的な課題に対応した教員組織を整備し、組織的な連携体制を構築するとともに全学的な取り組みの中で定員を確保する。
自己点検評価委員会からの評価	教育の質保証の観点からも、教員の定員確保については全学的に取り組み、早急に改善すべき事項と考えます。

Ⅳ．研究活動・研究環境

担　当：　学術振興委員会

本年度の活動目標	１．研究意欲の発揚と共同研究推進のために研究会の定例開催を行う。 ２．競争的外部資金導入のための情報を収集し、提供する。 ３．学術振興に関する「よろず相談」を継続して実施し、必要に応じて研究環境整備に関する検討を行う。 ４．紀要は年２回発行とする。第 13 巻第１号、第２号を作成し、電子化・公開する。
活動内容の評価	１．研究意欲の発揚と共同研究推進のために下記研究会を開催したが、前期は参加者が 24 名と振るわず、実施時期等について見直しが必要と思われる。学科間を越えた研究の取り組みは特別研究費で一部行われているが、全学挙げての取り組みが地域への貢献などの観点から必要と思われる。 １）前期研究報告会の開催：2012 年８月８日(水)9:30-11:30 紀要執筆者２名と新任教員１名の発表　出席 24 名(教職員 16 名、学生他８名) ２）後期研究報告会の開催：2013 年３月 21 日(木)9:00-12:30　出席：38 名 特別研究費取得者：中間報告５件、最終報告４件(新規３件、継続６件) ２．競争的外部資金導入のための情報収集と提供については、科研費説明会において過年度審査委員や採択者によるアドバイスを実施し、さらに以下の講演会を開催した。講師である田中氏の協力を得て、新たな取り組みへの門戸を開いた。 外部研究資金獲得のための講演会開催：2012 年 12 月 26 日(水)16:30 ～18:30 講師：帯広畜産大学 産学官連携コーディネーター田中 一郎 氏　　出席 31 名 今年度科研費採択件数は継続８件、新規２件の 10 件であり、次年度申請件数は 15 件である。受託研究及び事業は 13 件あり、総額で 800 万円強となった。 ３．研究環境整備に関しては、若手研究者の育成という観点から、助手の待遇改善を図るため、両学科長に助手の待遇実態について聞き取り調査を行い、検討を開始した。成果としては、助手を研究代表者とする特別研究費の取得が実現し、今後の待遇改善の弾みとなることが期待され、次年度への継続課題とした。 ４．大学院生を含む若手研究者の育成の意味も込めて、紀要の年２回発行を実施し、前期は３件、後期は７件の投稿を得た。系統的学習の必要性から学内用の冊子体作成を次年度から復活させることとした。
次年度への課題	１については研究報告会の実施時期見直しや学科間を越えた全学的研究活動の促進、２については申請件数増加のための努力、３については具体的方策の提示、４については外部査読の見直しなどが必要と思われ、いずれも次年度の課題とした。また、新たに機関リポジトリに掲載する研究情報についての検討を行うことを課題に加えた。
自己点検評価委員会からの評価	課題の検討を期待します。特に科学研究費補助金等の外部資金獲得のための支援、若手教員の研究活動支援について検討など積極的な取り組みを期待します。

Ⅳ．研究活動・研究環境

担　当：　研究倫理委員会

本年度の活動目標	１．倫理審査に関わる手続きの整備 ２．審査申請へのサポート体制の構築 ３．研究倫理に関する啓発活動と情報提供
活動内容の評価	１．倫理審査に関わる手続きの整備 昨年度から導入した事前意見書の活用が定着し、申請内容に関する各委員からの疑問や指摘に対して、申請者が本審査前に一度対応するようになったため、審査手続きが迅速に行えるようになった。 また、国が臨床研究の倫理指針の中で整備を求めている利益相反（COI）の管理についても委員会で審議し、来年度の申請分より、従来の倫理審査申請書に加えて、利益相反自己申告書も添付させることとなり、手続きの整備を進めることが出来た。 ２．審査申請へのサポート体制の構築 委員会の事務局を担当している総務課スタッフおよび委員長が、申請の際の質問等に対応するようにした。 ３．研究倫理に関する啓発活動と情報提供 おもに新任教員と大学院生を対象に、年度始めに、本学の研究倫理審査に関する諸資料を配布し、そこで申請書のフォーマットや、申請書を書く際のチェックリスト等を渡し、情報提供を行った。また、委員会内では、有用と思われる、研究倫理に関する最新の文献のコピー等が配布され、倫理審査に対する各委員の理解の深化が図られた。
次年度への課題	教員および大学院生全体に対する啓発活動を増やすことが、次年度への課題である。 次年度は早々に、利益相反自己申告書の書き方等の説明のために、講習会を開く予定であるが、そうした機会をとらえて、研究倫理への理解を深める啓発活動を行う必要がある。 また、本委員会にはこれまで予算がなかったが、啓発のために外部から講師を呼ぶためにも、再来年度に向けた予算措置を、来年度中に講じる必要がある。
自己点検 評価委員会 からの評価	審査手続きが整備された点は評価できます。 今後は、事案によっては外部の倫理委員を導入することも検討してください。

Ｖ．ＦＤ活動等

担　当：　ＦＤ委員会

本年度の活動目標	１．学生の授業評価アンケート結果に基づいたFD講演会を開催する ２．学生の授業評価アンケート結果を利用した具体的な授業改善策を見出す
活動内容の評価	１．学生の授業評価アンケート結果の経年データの分析から「講義要綱（シラバス）」に関する評価が他項目に対して低いため、「シラバスとは何か」をテーマに講演会（８月）を開催した。そこで「授業・講義要綱（履修者以外不特定多数に配布）」と「シラバス（授業計画中心に履修者に配布）」に関する共通認識を得た上で、３月にシラバスを実際に作成するワークショップを開催した。学生の授業評価に基づくFD講演会が開催されたことは評価できる。 ２．教務委員会と連携し、授業評価アンケートの集計結果のアウトプット方法を 2013年度より棒グラフ形式からレーダーチャート形式に変更するようにした。各自がアンケート結果を踏まえた、より具体的な授業改善ができるような方策を築いた点は評価できる。
次年度への課題	１．シラバス作成に必要な評価方法、授業計画案、全体カリキュラムと個別授業の関連などが残っているため、次年度は目的・目標に沿った授業の評価方法づくりに焦点を当てたい。 ２．学生の授業評価アンケート結果に基づく具体的な授業改善案として、個々の授業担当者が授業改善を毎年実践できるシステム作りとその実行が課題である。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

Ⅵ. 社会貢献

担　当：　地域連携等委員会

本年度の活動目標	１．公開講座の企画・運営を行い、地域住民に貢献する。 ２．東区役所と本学の連携事業の把握、および東区４者（東区役所、大谷大学、北海道体育大学校、本学）連携事業の企画、運営を行い、地域住民に貢献する。 ３．大学間連携として、北海道薬科大学との連携事業に協力する。
活動内容の評価	１．北海道薬科大学（以下薬科大）と連携した公開講座は今年度で3回目である。薬科大と連携して実施することにより、講座の内容に広がりができた。受講生のアンケート（別紙1）からも地域住民の方々にとって有意義な講座を実施することができたと評価できる。 2．本学教員と学生ボランティアが東区役所と連携し地域住民対象に7件の事業を行い、本学の質的資源が地域住民に還元されたことは評価できる。しかし、これら7件の事業は東区から依頼されたものが多く、本学から地域に貢献できるような事業の検討が必要である。 東区4者（札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌東区、本学）連携協定締結に伴う記念公開講座を企画・運営した。結果 80～120 名の地域住民の参加があり、受講者アンケート（別紙2）では好評であったので評価できる。しかし、4者間の評価では、これまで実施されてきた、健康フェスティバルと内容が重複するとの意見があり、実施方法と合わせて、今後、検討する必要がある。 3．大学間連携として、薬科大が主体で実施している夕張市地域医療学生ボランティアへの参加者の把握を行った。
次年度への課題	1．公開講座で薬科大と連携することの利点を生かし、企画、運営（経費等も含む）について検討する。 2．東区役所と本学との連携事業について、本学が企画する事業について（学内への周知・協力を含めて）検討する。 また、4者連携では、それぞれの組織が持っている資源の有効活用について検討する。 3．薬科大との連携事業では、夕張市地域医療学生ボランティアの参加者の把握の他に委員会として連携内容等について検討する。また、他大学との連携等についても検討する。 ４．本学教職員が地域と連携して実施している事業等の全体像を掌握し、地域社会へ貢献している現状を整理する。
自己点検 評価委員会 からの評価	次年度への課題に向けた検討を期待します。

別紙1

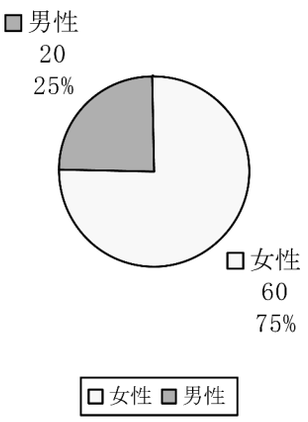
回答数:　80

第13回天使大学・北海道薬科大学連携公開講座　アンケート結果

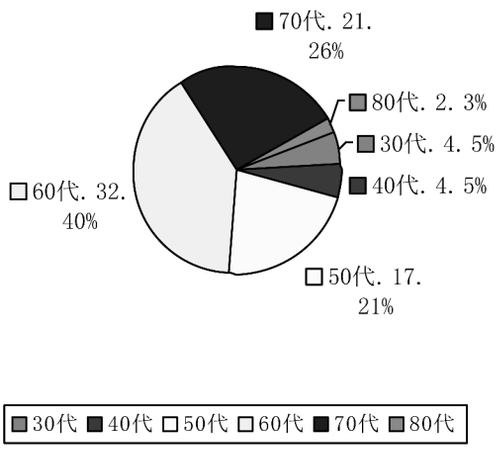
アンケート実施日：2012年8月22日(木)～9月20日(木)（毎週木曜日 5回）

1. 次の事項について、差し障りのない範囲でお答え願います。

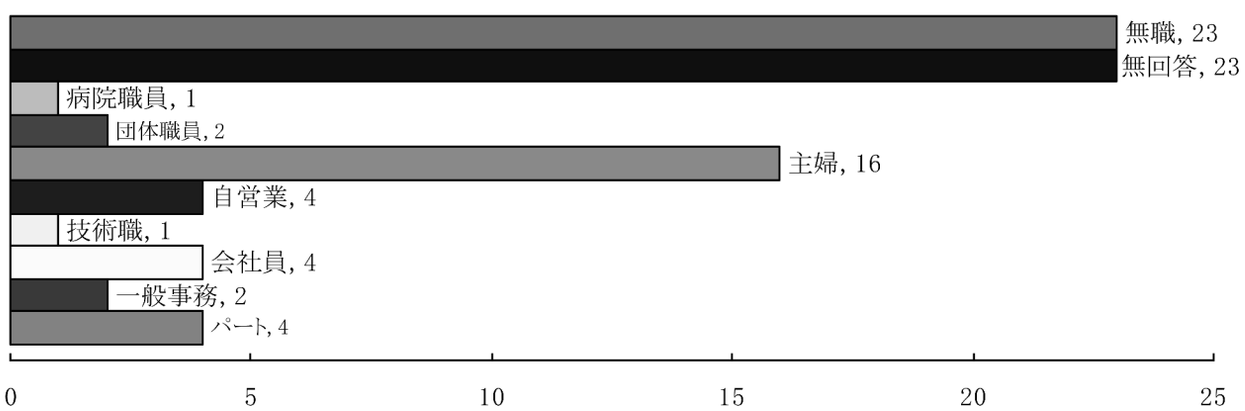
1.1)男女別



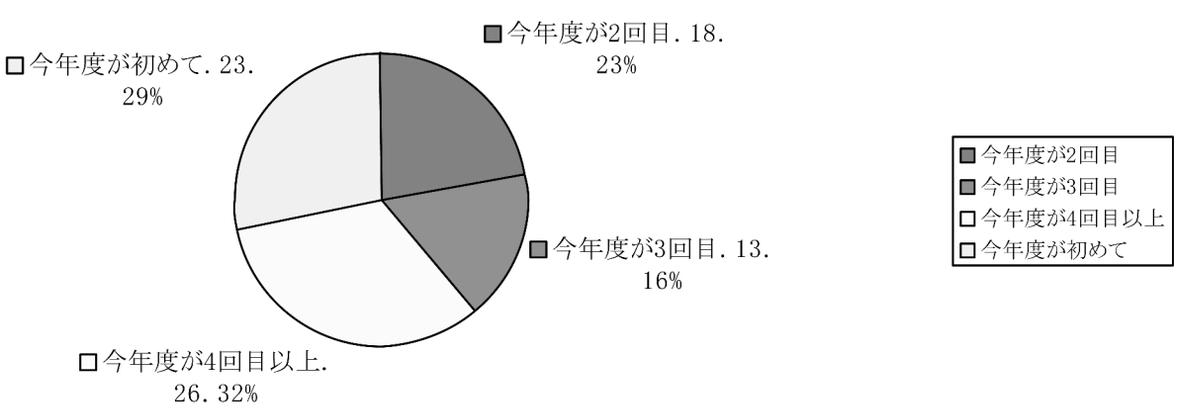
1.2)年齢別



1.3)職業別



2. 参加回数は？



3. 何で知りましたか。（複数回答あり）

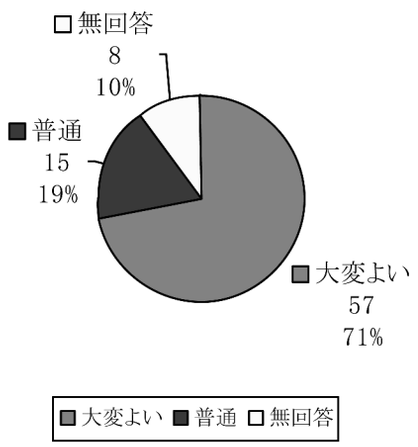
ポスター、ちらし	15	17.0%
本学からの郵便物（ダイレクトメール	50	56.8%
新聞	4	4.5%
広報誌（道民カレッジ等）	10	11.4%
知人の紹介	0	0.0%
その他	7	8.0%
回答なし	2	2.3%
	88	

4. ご参加の動機をお聞かせください。（複数回答あり）

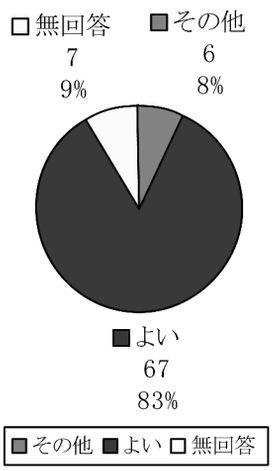
テーマに興味があったので	68	46.3%
講師陣に魅力を感じて	5	3.4%
天使大学の公開講座だから	27	18.4%
通いやすいので	27	18.4%
通いやすい開講時間帯であるため	19	12.9%
その他	1	0.7%
回答なし	0	0.0%
	147	

5. 今年度の公開講座についてご感想をお聞かせください。

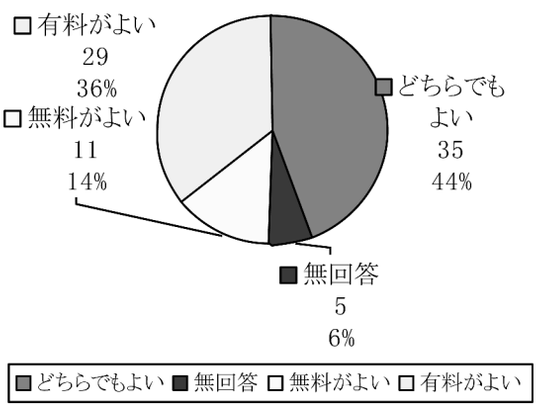
5.1)全体テーマについて



5.2)回数について



5.3)料金について

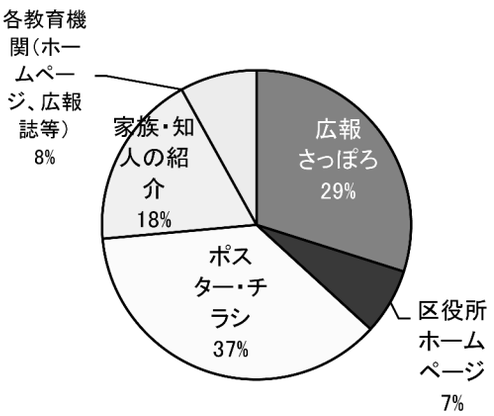


別紙2

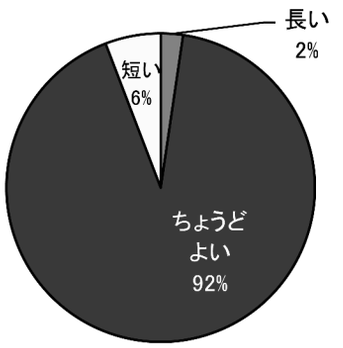
大谷・天使・道体（北海道体育大学校）による東区健康づくり公開リレー講座　アンケート結果

アンケート実施日 ： 2012年11月20日（火）

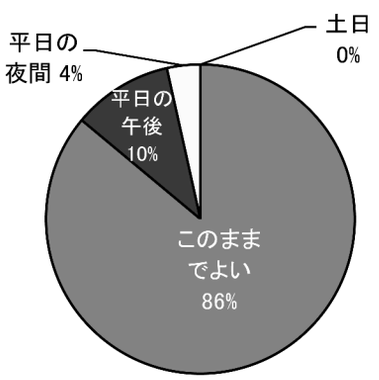
Q1　この講座を何で知りましたか?



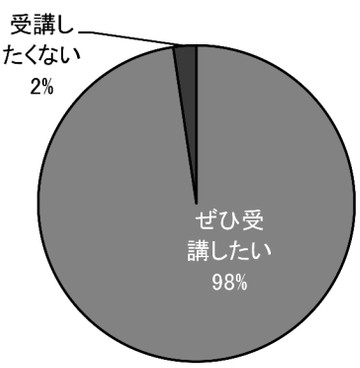
Q2　講座の時間はいかがでしたか?



Q3　またこのような講座があったら、開催日・時間帯はどれがよいですか？



Q4　また3教育機関によるリレー方式の講座があったら、受講したいと思いますか？



Ⅶ. 学生生活

担　当：　学生委員会

本年度の活動目標	1．学生の生活・健康に関する支援を行う。 2．学生会活動等の支援を行う。 3．学生生活全般に関する支援を行う。 4．学生生活についての調査・評価を行う。 5．国際交流活動に関する事項を行う。 6．行事のあり方、内容、時間についての検討を行う。
活動内容の評価	1．喫煙防止対策として、入学式での父母へのパンフレット配布、アッセンブリーアワーでのぴあの会による新入生対象の禁煙セミナーを実施した。パンフレット配布　は残部が多かったため、次年度は手渡しを計画している。禁煙セミナーは高評価につき継続を予定している。 2．保健相談室・学生相談室主催のミニ講座は、いずれも好評であった。上記も含め、上級生によるサポートは有効と考えられる。 3．学生相談室は、本年度より週５日の開室としたが、年間を通して学生の利用が見られた。しかし、学生支援教員等との連携不足な点もみられた。 4．学生生活における啓発教育（薬物乱用・カルト等）を新学期の早い時期に１年生に実施しているが、参加学生数も多く、注意喚起になっている。２・３年生対象の薬物乱用防止セミナーについても専門的な内容の評価が高かった。 5．天使祭・体育祭・講演会に向けた学生活動の支援では、葦の会役員を中心に概ね企画、運営できていたが、一部情報伝達の不徹底、実施後の評価アンケートの集計作業の遅れ等、役割協力が不足する点もあり、学生の特徴を踏まえた支援方法の検討も示唆された。 6．学生会活動の支援（葦の会活動・クラブ活動等）では、次年度役員を対象にリーダー研修を支援（１回/年）したが、情報の共有や役割協力の点で研修成果の活用が不十分な点もあった。年２回実施の提案をしたが、時間的に実施はできなかった。学生の成熟度を踏まえ、今後も継続支援は必要と考える。 7．葦の会役員（新・旧）、学務課、学生委員会との交流会は、相互の意見交換の機会となり意義あるものと考えられた。しかし、学生間での次年度への引き継ぎについては発表した内容が次期役員にうまく引き継がれていない現状が伺え、引き継ぎ内容を活動段階から具体的な内容や方法等を指導する必要性が伺えた。 8．前(2011)年度の学生委員会における検討を踏まえ、「学生生活についての調査」を実施した。これで、2005, 2008, 2012 年度と３回、同様の内容で調査を繰り返した。従来どおり、素データおよび経年変化の考察を冊子にまとめた。計画どおりの実施であり、所期の目的は達成できた。なお、後日理事会からより詳細な考察について提出依頼があったため、集計結果に対する考察項目や結果の取り扱い方法等を調査前に検討・決定しておくべきである。 9．海外研修の立案、旅行業者選定、学生への周知などについては、計画どおり実施した。しかし、参加学生が予定の催行最小人数に満たず、実施しなかった。 10．天使祭や体育祭の実施時期や期間について、学生の希望を踏まえ、積極的に支援を行ったが、今後も継続的に検討を重ねることが必要と思われる。

次年度への課題	１．葦の会やぴあの会で活動する学生について、支援する側の学生がより積極的に活動できるような支援を充実させたい。 ２．学生相談室において休学前に支援していた学生に対し、復学時支援を学生支援教員等と連携を取りながらできるような体制を検討する。 ３．対象学年に合わせた講演会や啓発活動等の年間計画を立案する。 ４．社会や学生の状況変化にあわせ、海外研修の目的や在り方について再検討する。
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	特に学生満足度調査の結果なども踏まえ、学生生活環境改善や学生支援の課題を明確にし、課題の改善にむけて具体的方策を検討し、実施することを要望します。 また、学生の危機管理対策についての現在の状況分析および評価についても明らかにしてください。

Ⅶ. 学生生活

担　当：　宗務委員会

本年度の活動目標	1.宗教関係行事の運営 2.学生のキリスト教理解にむけた企画 3.教職員修養会の実施 4.教育理念に即した環境の整備 5.アッセンブリー・アワーの調整
活動内容の評価	1．宗教関係行事の運営 宗務関係行事の運営については、特別なミサ（イースターの集い、死者追悼のミサ、創立記念日のミサ、クリスマスのミサ、新年のミサ、教職員退職へ感謝の意向を持ったミサ、卒業修了のミサ、毎週のミサ）や儀式等（マリア様の戴冠式、クリスマスツリー点灯式、クリスマスキャロル、灰の儀式）を通じて、学内にキリスト教精神の理解を深めるようにした。 行事については、学生の参加率を上げるために努力していく。 2．学生のキリスト教理解にむけた企画 1）各学科における学年別の修養会でのミサや祈りの実施 2）アッセンブリー・アワーの時間を活用したケン神父様による宗教に関する講話を実施し、本学の理念の具現化を行っている。 3．教職員修養会について 1）カトリックセンターとの共催による教職員修養会の実施 2）講師の都合のため、11 月３日（土）の祝日に行ったが、参加者から今後の日程についての要望があった。 アンケートにも平日開催の希望が多く記入されていたため、カトリックセンターに内容を伝える。 4．教育理念に即した環境の整備 チャペル内を祈りやすい環境にするために側壁を変更する計画を立案し、次年度予算に盛り込む 5．アッセンブリー・アワーの調整 アッセンブリー・アワーで実施希望のプログラムを各学科や委員会に確認し、調整をしている。 宗務関連行事が少ないため、増やしていきたい。
次年度への課題	1．2013 年度より、講演会やオリエンテーションを企画し、学生達が建学の精神を理解できるようにする。 2．今後、チャペルをより祈りの場としてふさわしいように整備する。 3．2013 年度より、アッセンブリー・アワーの時間を活用してチャペルアワー、宗教関係の講演を優先して入れていく。
自己点検 評価委員会 からの評価	今後は実施した内容についてアンケート結果等のデータからの評価を加え、課題を具体化して取り組むことを期待します。

Ⅷ. 就職支援

担　当：　就職委員会

本年度の活動目標	１．就職率100％達成のための支援活動と支援体制強化 ２．就職ガイダンスの充実を図る ３．キャリア教育支援 ４．栄養教諭就職の支援
活動内容の評価	１．今年度の就職支援活動と支援体制強化について １）前期に就職相談週間（１週間）を設定し、終日、各学科就職委員が就職相談室に在室し、学生がより専門的な相談をしやすいようにしたが利用率は伸びなかった。 ２）栄養学科では、就職委員が４年次生のクラスメールを活用し、情報提供を行うことで効率化が図れた。 ３）就職内定率は、看護学科 100%、栄養学科 80%で、特に栄養学科の内定率の上昇が挙げられる。 ２．就職ガイダンスの内容・方法の見直しや追加について １）小論文の書き方を１回から２回に変更し、学生から理解度が上がったとの声があった。 ２）栄養学科は、学生が学生の就職支援をする方法として就職活動終了者（４年次）が３年生に対し、課題をブースごとにして、ガイダンスおよびアドバイスをすることを試みた。３年生に好評であった。 ３）新規に就職サイトの使い方や合同企業説明の廻り方のガイダンスを設置し、参加者から満足度の高い声があった。 ４）企業の理解を深めるため、計画した企業セミナー以外に学内会社説明会を臨時に設定した。18 名～47 名の参加があり就職活動の一助となった（感想文)。 ３．キャリア教育支援について １）厚生労働省の「ハローワークと大学連携戦略」を積極的に活用した。 ２）栄養学科１年次の「働くということ」をヤングハローワークに依頼した。内容は、「～になるには」というテーマでグループワーク・発表を行った。参加者からは好評であった。 ３）ハローワークの協力を得て、卒業生に対し、就職後も自分の身を守ることができるように「知っておきたい働くときのルールについて」講義した。 ヤングハローワークや労働局と連携は、費用も無償であり、質も高いため、今後も積極的に利用していきたい。 ４．栄養教諭、および公務員の就職支援について １）教職課程委員会と連携して支援した。2012 年度は北海道で最終合格者７名（うち大学院生１名)、札幌市で 11 名が合格者し（うち卒業生１名を含む）大幅採用につながった。 公務員試験に更に合格するように支援していく ５．卒業生への就職支援について １）新卒学生や既卒学生についても就職支援を行っている。新卒学生についは、卒後１年間、就職するまでＥメールで情報提供を行い、既卒学生には、「卒業生のための求職登録票」というものを使用し支援を行っている。 主に利用しているのは、栄養学科卒業生だが、今後も続けていきたい。

	６．その他 １）就職ガイドブックの作成、就職相談室ニュースを年３回発行した。 次年度も情報提供のために発行していく。 ２）2012 年度の委員会活動は看護学科、栄養学科、助産研究科の委員で行った。
次年度への課題	１．就職相談週間の時期や方法を検討する。 ２．栄養学科の学生の中には、就職活動が遅く未内定のまま卒業する学生がいるので、学生の動向を把握するようにする。 ３．看護学科の学生については、第一希望で採用されるように、病院の情報などを積極的に提供していく。 ４．栄養学科の学生の就職開拓を大学広報委員会と連携しながら展開する。 ５．就職開拓グッズの見直しを行う。 ６．就職支援、および本学教育成果の指標の１つとして卒業生の就職後の活動状況の把握に努める。そのため、卒業生向けのガイダンスを開催し、卒業生に大学に来てもらい、状況把握に努める。
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	栄養学科での様々な取り組みによって、就職率が向上したことは評価できます。 次年度への課題に向けた検討を期待します。

Ⅸ. 図書館

担　当：　図書情報委員会

本年度の活動目標	１．図書館情報管理システムLIMEDIOの外部公開用検索サーバの追加導入 ２．平日開館時間延長に伴う業務委託導入(継続) ３．LIMEDIOによる蔵書点検の実施：年度内に１回実施(実施時期は８月) ４．図書館オリエンテーションや文献検索ガイダンスの見直し ５．過年度登録分研究費図書の処理計画作成(継続) ６．洋雑誌　利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え実施 ７．機関リポジトリの本学に相応しいあり方の検討と実施計画の策定 ８．将来構想小委員会への参加：新館構想に向けての素案提示(情報処理室を含む)
活動内容の評価	１．LIMEDIO用追加サーバについては計画どおり、2013年３月に導入した。これにより、学外からの所蔵検索やマイライブラリーが､さらにCINAHL等の一部データベースが2013年度から利用可能となり、利便性が高まった。 ２．開館時間を21時50分まで延長して４年目となった。この３年間の利用統計や利用者アンケートの結果等から開館時間延長幅の見直しを行い、2013 年度から平日は８時 50分～21時とした。ただし、試験期間は８時30分～21時30分に延長して対応する。結果、業務委託は取り止め、学生アルバイトと館員による体制に戻すこととし、人件費が大幅に削減された。 ３．LIMEDIO仕様のハンディターミナルを使用し、８月初旬の３日間に、計画どおり実施することができた。ただし、８月は夏期休暇が全学一斉ではなくなったため、開館したままの実施が難しくなったことから、次年度は３月下旬の閉館時に実施時期を変更することとした。 ４．担当教員と連携して、講義等に合わせたガイダンスを行っている。ガイダンスの内容については次年度以降も見直しが必要と思われる。 ５．昨年度から研究費図書の資料費購入が可能になったが、それ以前の資産登録分について財務担当と連携し、年次計画で除籍基準に基づく処理を進めている。 ６.利用頻度調査結果に基づく電子ジャーナルへの切り替えや購読誌の見直しがここ数年順調に行われている。 ７.大学図書館界においては大学独自のリポジトリ構築と国立情報学研究所を中心とした共用リポジトリ利用の動きがあり、本学に相応しいリポジトリについては動向を見極め、2014年度に予算計上して構築することができるよう、継続課題とする。 ８．図書館及び情報処理室とも素案を提示し、新館建設に向けた情報提供を行った。
次年度への課題	今年度見直しを行った２、３、４についてはその成果を確認する意味で2013年度の課題とし、５と６については順調に推移しているため、課題とはせず継続実施する。７は博士論文の全文公表が開始されることから、2013年度中に具体案を提示し、2014年度の構築を目指す。８は情報収集と分析を行って、継続して検討を進めるべき課題と思われる。
自己点検 評価委員会 からの評価	開館時間の見直しについては、利用者の意見を反映させ、さらに経費の削減ができたことは評価できます。 リポジトリ構築については、関係各機関と連携を図りながら取り組むことを期待します。

Ｘ．情報処理システム

担　当：　図書情報委員会

本年度の活動目標	１．サーバーシステムの入替整備：止まらないシステム＆学生サービスの向上をめざして ２．無線 LAN 環境の整備：ラウンジとマリアホール ３．情報処理室端末の入替整備：情報処理室端末 120 台の更新 ４．情報処理室授業支援システムの整備 ５．遠隔地授業支援システム(TV 会議システム)の整備 ６．利用マニュアルの新規作成 ７．情報処理室夜間アルバイト１名増員による２名体制の確立 ８．情報処理室事務室の移動(拡張)：事務スペース及び作業スペースの確保と環境改善
活動内容の評価	１～５．情報機能整備計画を 2010 年度に策定し、2011 年度には学内ネットワークの整備、2012 年度にはサーバーシステム更新を中心に、学生により良い利用環境を提供するため、情報処理室の端末 120 台の更新、授業支援システムの導入、さらに実習先との双方向授業などを円滑に行う TV 会議システムの利用やマリアホール及びラウンジへの無線 LAN 域設定などを予定どおり実施した。現在は動作確認などを繰り返し行い、不具合が生じにくい環境とするため、業者と連携し微調整を行っている。 ６．前記の完了とともに作成を開始し、後期に利用案内を行った。さらに、次年度へ向け改訂・編集作業を行っている。 ７．後期の利用増を予測して、各室にアルバイトが配置できるよう、アルバイト学生を増員して各日２名体制に変更した。アルバイト学生が協力して対応できるため、順調に推移している。情報処理室の職員についても、これまで嘱託職員１名と派遣職員１名による綱渡り状態にあったが、2012 年度から専任職員１名、嘱託職員１名の２名体制が確立し、円滑なサービス提供が可能となった。 ８．サーバ室の拡張に伴い、事務室が狭隘化したため、近隣の研究室を転用して事務室とした。これに伴い受付業務がスムーズに行われるよう、工夫改善を続けている。 今後は導入した各種システムがフルに活かされる利用環境を構築するため、あらたな目標を設定し、実現していくこととする。
次年度への課題	１．各システムの円滑な利用を推進し、保守管理体制を確立する。 ２．2013 年度利用状況の把握やアンケート調査などを行って、利用マニュアルの改訂や説明会の開催などを計画・実施し、さらに利用環境の改善整備を図る。 ３．図書館と連携し、新館建築計画等の策定に際し情報提供ができるよう準備する。
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	情報機能整備計画に基づき、サーバーシステムの更新や無線 LAN 域設定などを円滑に行ったことは評価できます。利用環境の更なる改善に期待します。

XI. 施設・設備

担　当：　事務局総務課

本年度の活動目標	１．校舎の環境保全および維持管理 ２．学生の学習環境、生活環境の改善 ３．施設設備の光熱水費の省エネルギー化
活動内容の評価	１．本年度は３号館１階クラブ室屋上防水補修工事、体育館廊下窓落雪防止戸設置工事および６号館機械室給水ポンプ逆流防止弁交換工事などの校舎補修、維持のための工事を行った。また、定期的に屋上防水や外壁補修などを行っているが、既設校舎の老朽化も進んでいくことから、新校舎建設へ向けて第２号基本金組入れ計画表に基づき第２号基本金引当特定預金への積み立てを行った。 ２．前年度末に各講義室にエアコンを設置したことから、夏季の学習環境は大幅に改善された。また冬季間も温水パネルヒーターが休止する 20 時以降についても、エアコンによる暖房運転で、学生の自習環境は改善された。 学生食堂については本年度に委託業者の切り替えを行った際に、改めて厨房設備の見直しを行い、新たな機器設備を導入した。学生の生活（食事）環境改善にも力を入れたことで前年度に比べ、食数も上昇している。 ３．エアコン設置により電気代の上昇が予想されたが、震災プロジェクトチームの学生への呼び掛けや掲示物での啓蒙および体育館照明の LED 化、１階廊下の CCFL 電灯への切り替えなどにより、エアコンによる電気代の増加やガス単価の値上げによるガス料金の増加がありながらも、光熱水費は前年度からわずかな上昇で抑えられた。
次年度への課題	１．校舎の環境保全、維持管理及び学習支援を図るため老朽化する施設や設備の定期的な修繕工事と修繕計画の立案 ①　体育館・１～５号館給水配管工事の改修 ②　学生ロッカーの入替、マリアホールのテーブル・椅子の入替 ③　講義室液晶プロジェクター更新やＡＶ操作卓の導入 ２．エアコン設置や今後のガス単価の値上げに伴う更なる省エネ化 ３．中長期計画に伴う新校舎建築計画の立案 ①事前調査、建物診断等の実施
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	学生の学習環境として、学生数の増加、老朽化等からの教室の狭隘化問題などについての対策の検討を要望します。 また、前々回の認証評価機構から継続的に指摘を受けたバリアフリー化についての検討の経過および方策についても早急な検証が必要です。

Ⅻ. 管理運営

担　当：　事務局総務課

本年度の活動目標	1．「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」を定期的に開催し、学長を中心とした組織的な意思決定を図る。 2．「委員会通則」の改正により、委員会運営の強化を図る。
活動内容の評価	1．「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」を定期的に開催し、活発な議論を行った。 2．2011 年度に改正した「委員会通則」を今年度(2012 年度)より施行したことにより、大学院を含めた新たな運営組織体制となった。各委員会の活動については教授会で報告される他、教学組織と運営組織の共通理解を図ることを目的とした運営連絡会等でも報告され、学園全体として共通理解を図ることに努めている点は評価できる。 3．助産研究科では従来の学生委員会など５委員会を本年度から教務委員会、入試委員会の２委員会に統合し一年間実施したところであるが、募集や広報の対象者が異なることなどから教務委員会、入試・広報委員会として再編成し 2013 年度から運用することとした。
次年度への課題	「教育研究評議会」、「教授会」および「研究科委員会」などを定期的に開催し、組織的な運営に努める。
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	今後は、認証評価機構の点検項目を参考に評価、検討して下さい。その上で課題を明確化して次年度の改善につなげることを期待します。

Ⅻ．財務

担　当：　事務局総務課

本年度の活動目標	１．各引当特定資産の計画的な繰り入れによる財政基盤の安定化 ２．受験者数、入学者数の安定的な確保による帰属収入の確保
活動内容の評価	１．本年度も退職給与引当特定資産へ 28 百万円、減価償却引当特定資産へ 92 百万円および第２号基本金引当特定資産へ 110 百万円繰り入れた。これにより退職給与引当預金率は 81.5％となり、同系列の他法人平均（69.8％）と比較してもかなり繰り入れができている。また、第２号基本金組入計画表に基づき第２号基本金引当特定資産の繰り入れも順調に行うことができた。 ２．私立大学を取り巻く経営環境が厳しい中、2012 年度の受験申込者総数は 842 名と前年度 787 名から 55 名増えた。内訳は看護栄養学研究科 10 名（前年度６名）、助産研究科 35 名（同 28 名）、看護学科 525 名（同 531 名）、栄養学科 272 名（同 222 名）とほとんどの研究科、学科で受験生が増加した。入学者については、222 名と入学定員（225 名）を若干下回ったが、継続的に確保できているため、在籍者総数も 805 名と定員 806 名とほぼ同数となっている。このため学生生徒等納付金や前受金が安定的に確保できていることが、財務比率の数値を良好にしている。
次年度への課題	１．継続的な受験者数、入学者数の確保（特に大学院入学者） ２．外部資金の確保（補助金収入、事業収入等） ３．教育研究経費の効率的な予算配分（教育研究経費比率の上昇）
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	今後は、認証評価機構の点検項目を参考に評価、検討を行い、課題を明確化して次年度に改善につなげることを期待します。

ⅩⅣ. 事務組織

担　当：　事　務　局　長

本年度の活動目標	１．事務局組織、人員体制のあり方について、学生支援、教育研究支援、経営支援等を行うため、効率的、機能的な組織の構築を目指す。 ２．2011 年度の（財）大学基準協会の点検評価結果において、事務組織・事務業務の継続性の観点から専任職員と非専任職員の構成バランスについて検討を求められたことについて改善を目指す。 ３．事務局の課内および課間の業務分担を見直し、業務量の平準化など効率的・機能的組織を目指すために、事務局内や将来構想委員会小委員会で提案された組織体制と、各課の人員構成、業務の改善等についての検討を行う。
活動内容の評価	１．専任職員と非専任職員の構成バランスについては、2013 年度において専任職員２名を職種変更により増員することになり、改善が図られることになった。 ２．業務分担や業務量の見直しにより事務局内の不均衡を是正することや、財務体制や入試事務や広報体制についても強化する必要があることから、2013 年度において組織・体制を見直すこととして検討を行った。 ３．年度途中において、事務局長、総務課長代理が退職したことにより、事務局の業務を円滑に遂行するため、教授会等の開催業務を各課長で分担し、学務課長補佐を総務課長補佐と併任するなどの措置をとり、協力体制をとった。 ４．事務職員の資質の向上のために、今年度も日本私立大学協会等が開催する各種研修会に参加して研鑽に努めるとともに、事務局全体研修として SD 研修会を９月４日、教職員修養会を 11 月３日に実施した。事務局全体の業務の向上のためには専任職員同様に嘱託職員の資質の向上が必要であり、今後は、内部研修の参加とともに外部研修に参加させることを検討する。 ５．教学組織との関係においては、研究科、学科、科、教学の常設委員会に、事務局長や課長等が事務局として関わることで、教学組織と密接な連携により円滑な運営を行っている。
次年度への課題	１．2013 年度において、大学運営の効率的で機能的な支援を行うための事務局体制の見直しを行う。 ２．事務局組織のレベルアップのため、専任職員の研修参加はもとより、同種の業務を行う嘱託職員についても研修機会の充実を図る。
自 己 点 検 評価委員会 からの評価	2013 年度に向けた事務組織体制の見直し内容については実態を検証し、業務評価を行い改善が図られることを期待します。

XV．自己点検・評価活動

担　当：　自己点検評価委員会

本年度の活動目標	1．2011 年度の大学評価（認証評価）における課題に関して、全学的な課題の共有と改善に向けた方策の見直し及び実施 2．大学における自己点検活動のあり方の検討（PDCA サイクルによる自己点検活動） 3．2011 年度年報作成および 2012 度以降の年報の内容の検討
活動内容の評価	1．2011 年度大学評価の内容、課題について全学的に共有を図るため、教員及び職　　員を対象に説明会を実施した。（教員６月教授会、職員９月 SD 研修会にて実施）。これまで、全学的に自己点検活動を共有する場を設けていなかったため、現状の課題がどこにあるのか、どの部門で検討していくべきかを全学的に共通認識を持ち、自己点検活動が全学的な取り組みであることを認識する機会になったと評価する。 2．PDCA サイクルによる自己点検活動のあり方の検討を行った。2012 年度は年報の見直しから始めた。従来の年報の記載内容を見直し、その結果、以下の問題点が明らかとなった。①目標、内容がほとんど例年同じ内容で記載　②活動内容、評価が混在する、数値化などないため評価結果があいまい　③資料の掲載にとどまり、活動結果などの分析・評価があいまい　④改善策に具体性がないため、次年度の改善につながっていないなど。以上から 2012 年度以降の年報では、年度の目標、活動、評価、2013 年度への継続もしくは改善点などを簡潔に示す記述内容とし、担当機関が、何を課題にどのように取り組み、その結果どうであったのかを意識できるものとした。年報の改訂にあたっては、教職員関係者を集めた説明会を実施した。また、自己点検評価委員会が年度末に評価するという体制をとり、大学全体での課題を明確にした取り組みを行った。以上は、自己点検評価委員会を中心とした PDCA サイクルによる自己点検活動の第 1 歩を進めることができたと評価する。 3．従来方式の 2011 年版は年報原稿の最終提出８月末、発刊 11 月という状況であったが、2012 年度版は６月の発刊を目指し、原稿締め切りは３月末、３月末には評価報告会を実施するなど年度末に評価を行うことを意識したサイクルに変更した。 2012 年３月に初めての試みとして、年報原稿作成後 2012 年度の活動内容及び次年度の課題に関する報告会を学長出席のもと行った（常任監事 陪席）。 出席者は、学科長、委員長らが中心であったが、意見交換や各員会の取り組み内容の確認などが行われ全学的に各部署の取り組みを理解する上で効果的だった。今後は、教職員にも公開する、または全学的な報告会等も必要と考える。
次年度への課題	1．改訂年報及び評価報告会が、今年度明らかになった年報内容の問題点を改善し、自己点検評価活動としての活性化に結びついているのかを検証する。 2．助産研究科の日本助産評価機構による認証評価を受審する。
自己点検評価委員会からの評価	

自己点検・評価資料

目　　次

Ⅰ．学事歴 …… 33

Ⅱ．2012 年度開講科目一覧 …… 35

１．教養教育科 …… 35

２．看護学科 …… 36

３．栄養学科 …… 38

４．教職課程 …… 40

５．大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士前期課程） …… 41

６．大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士後期課程） …… 41

７．大学院看護栄養学研究科　看護学専攻（修士課程） …… 42

Ⅲ．学生数・奨学金の採用状況 …… 43

Ⅳ．国家試験合格率 …… 45

Ⅴ．就職・進学状況 …… 46

Ⅵ．2013 年度入試結果 …… 48

Ⅶ．教員組織 …… 49

Ⅷ．事務組織 …… 51

Ⅸ．研究等の活動 …… 52

Ⅹ．組織図 …… 55

Ⅺ．会議の開催状況 …… 56

Ⅻ．委員会構成一覧 …… 62

ⅩⅢ．委員会の活動報告 …… 63

ⅩⅣ．図書館の利用状況 …… 80

ⅩⅤ．情報処理室の利用状況 …… 81

ⅩⅥ．施設・設備の状況 …… 82

ⅩⅦ．財務状況 …… 84

Ⅰ． 2012年度 学事暦

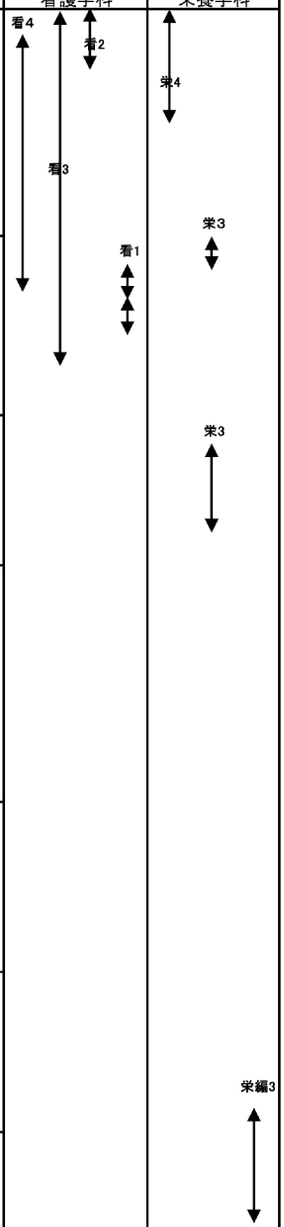
【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等		臨地実習 看護学科	臨地実習 栄養学科
4月	1	2	3	4	5	6	7	3日(火)13:00	入学式		
								4日(水)	新入生オリエンテーション		
	8	9	10	11	12	13	14	4日(水)	2～4年次ガイダンス、定期健康診断		
								5日(木)	前期始講		
	15	16	17	18	19	20	21	5日(木)～6日(金)	新入生(1年次)宿泊研修「出会いと親睦のゼミ」		
								5日(木)～11日(水)	履修登録期間(2～4、栄編3・4年次)		
	22	23	24	25	26	27	28	9日(月)～ 13日(金)	同上(1年次)		
								24日(火)午後	始業ミサ、イースターの集い・学生総会		
	29	30									
5月			1	2	3	4	5				
	6	7	8	9	10	11	12			看4	
	13	14	15	16	17	18	19	16日(水)午後	合唱コンクール		栄4
	20	21	22	23	24	25	26				
	27	28	29	30	31						
6月						1	2				
	3	4	5	6	7	8	9				
	10	11	12	13	14	15	16	14日(木)午後	天使祭準備		
								15日(金)16日(土)	天使祭		
	17	18	19	20	21	22	23				
	24	25	26	27	28	29	30	30日(土)	開講日		
7月	1	2	3	4	5	6	7	7日(土)	開講日		
	8	9	10	11	12	13	14				
	15	16	17	18	19	20	21	21日(土)	開講日		
	22	23	24	25	26	27	28	28日(土)	開講日		
								23日(月)～27日(金)	主たる受講年次が看2･3年次科目定期試験		
	29	30	31					30日(月)～8月3日(金)	主たる受講年次が看1、栄1～3年次科目定期試験		
8月				1	2	3	4	1日(水)～2日(木)	主たる受講年次が看2･3、栄4年次科目追試験		
								8日(水)～9日(木)	主たる受講年次が看1、栄1～3年次科目追試験		
	5	6	7	8	9	10	11	7日(火)～9日(木)	主たる受講年次が看2･3、栄4年次科目再試験		栄4 栄編4
	12	13	14	15	16	17	18	17日(金)	主たる受講年次が看4年次科目追試験		
	19	20	21	22	23	24	25	22日(水)～24日(金)	看2･3年次臨地実習オリエンテーション	看3 看2	
	26	27	28	29	30	31		27日(月)～29日(水)	主たる受講年次が看1、栄1～3年次科目再試験		
								27日(月)	主たる受講年次が看4年次科目再試験		
授業期間			主たる受講年次が看2.3年次科目						4月5日(木)～7月20日(金)		
			主たる受講年次が看4年次科目						4月5日(木)～5月11日(金)		
			主たる受講年次が看1年次、栄1～4年次科目						4月9日(月)～7月27日(金)		
臨地実習			看2年次 基礎看護学臨地実習Ⅱ						8月27日(月)～9月7日(金)		
			看3年次 健康生活看護学臨地実習								
			(母性,小児,老年,成人Ⅰ・Ⅱ)						8月27日(月)～10月26日(金)		
			看4年次 健康生活看護学臨地実習								
			(母性、小児、老年、成人Ⅰ・Ⅱ、統合Ⅰ・Ⅱ)						5月14日(月)～8月10日(金)		
			(精神)								
			在宅看護臨地実習						5月14日(月)～8月10日(金)、9月3日(月)～10月12日(金)		
			栄4年次 栄養学科臨地実習								
			(給食経営管理論実習Ⅲ, 同Ⅳ)						5月21日(月)～6月8日(金)		
			(臨床栄養学実習Ⅴ)						8月13日(月)～9月21日(金)		
			(公衆栄養学実習Ⅱ)						※栄編4年次は8月13日(月)～8月31日(金)		
			(栄養教育実習)								
夏期休暇			看1年次						8月4日(土)～9月17日(月)		
			看2･3年次						7月28日(土)～8月26日(日)		
			看4年次						8月11日(土)～9月2日(日)		
			栄1･2年・編3年次						8月4日(土)～9月17日(月)		
			栄3年次						8月4日(土)～9月2日(日)		
			栄4・編4年次						7月28日(土)～8月12日(日)		

Ⅰ． 2012年度 学事暦

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
9月							1		
	2	3	4	5	6	7	8	3日(月)	主たる受講年次が栄3年次科目後期学内授業始講
	9	10	11	12	13	14	15	3日(木)～7日(金) 18日(火)	栄3年次後期履修登録変更期間 主たる受講年次が看1・栄1・2・年次科目後期学内授業始講
	16	17	18	19	20	21	22	18日(火)～24日(月)	
	23	24	25	26	27	28	29	24日(月) 24日(月)～28日(金) 24日(月)～28日(金) 28日(金)	看1・栄1・2年次後期履修登録変更期間 主たる受講年次が看2、栄4年次科目後期学内授業始講 看2・栄4年次後期履修登録変更期間 2年次教養科目履修登録変更期間
	30								
10月		1	2	3	4	5	6		
	7	8	9	10	11	12	13	15日(月)	主たる受講年次が看4年次後期学内授業始講
	14	15	16	17	18	19	20	15日(月)～19日(金) 16日(火)～17日(水)	看4年次後期履修登録変更期間 栄2年次修養会
	21	22	23	24	25	26	27	19日(金)午後	栄2ステップ・アップ・セレモニー
	28	29	30	31				29日(月) 29日(月)～11月2日(金)	主たる受講年次が看3年次後期学内授業始講 看3年次後期履修登録変更期間
11月					1	2	3		
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17	14日(水)～15日(木)	看2年次修養会
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30		27日(火)午後	看2戴帽式
12月							1	1日(土)	開講日
	2	3	4	5	6	7	8	4日(火)～5日(水) 7日(金) 8日(土)	栄3年次修養会 体育祭 創立記念日
	9	10	11	12	13	14	15	15日(土) 18日(火)午後	開講日 学生クリスマスの集い・学生総会
	16	17	18	19	20	21	22	22日(土)	開講日
	23	24	25	26	27	28	29	24日(月) 25日(火)	冬期休暇開始 キリスト降誕祭
	30	31							
1月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12	10日(木) 12日(土)	冬期休暇明け始講 開講日
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26	21日(月)～22日(火)	栄4年次修養会
	27	28	29	30	31			31日(木)～2月4・5・8日(月、火、金)	主たる受講年次が1～3年次科目定期試験
2月						1	2	1月31日(木)・2月1日(金)	主たる受講年次が4年次科目追試験
	3	4	5	6	7	8	9	8日(金)・12日(火)	主たる受講年次が4年次科目再試験
	10	11	12	13	14	15	16	13日(水)・14日(木)	主たる受講年次が1～3年次科目追試験
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28			25日(月)～27日(水)	主たる受講年次が1～3年次科目再試験
3月						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	7日(木)～8日(金) 12日(火)～13日(水)	看3年次修養会 看4年次修養会
	10	11	12	13	14	15	16	14日(木)	修了・卒業感謝のミサ
	17	18	19	20	21	22	23	15日(金)10:00～	卒業証書・学位記授与式
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								



授業期間	主たる受講年次が栄3年次科目	9月3日(月)～1月30日(水)
	主たる受講年次が看1・栄1・2・年次科目	9月18日(火)～1月30日(水)
	主たる受講年次が看2年次科目	9月24日(月)～1月30日(水)
	主たる受講年次が栄4年次科目	9月24日(月)～1月28日(月)
	主たる受講年次が看4年次科目	10月15日(月)～1月28日(月)
	主たる受講年次が看3年次科目	10月29日(月)～1月30日(水)
臨地実習	看1年次 基礎看護学臨地実習Ⅰ	10月11日(木)12日(金)・18日(木)19日(金)の午前 10月30日(火)31日(水)・11月6日(火)7日(水)の終日
	看2年次 基礎看護学臨地実習Ⅱ	8月27日(月)～9月7日(金)
	看3年次 健康生活看護学臨地実習（母性,小児,老年,成人Ⅰ・Ⅱ）（再掲）	8月27日(月)～10月26日(金)
	看4年次 健康生活看護学臨地実習（精神）（再掲） 在宅看護臨地実習 健康生活看護学臨地実習（地域Ⅰ・Ⅱ）	5月14日(月)～8月10日(金)、9月3日(月)から10月12日(金)
	栄3年次 栄養学科臨地実習 （給食経営管理論実習Ⅱ） （臨床栄養学実習Ⅲ）	9月3日(月)～10月12日(金) 10月1日(月)～5日(金) 11月5日(月)～23日(金)
	栄編3年次 栄養学科臨地実習	2月28日(木)～3月13日(水)
	栄4年次 栄養学科臨地実習(再掲)	8月13日(月)～9月21日(金) ※栄編4年次は8月13日(月)～8月31日(金)
冬期休暇		12月24日(月)～1月9日(水)

Ⅱ．２０１２年度開講科目一覧

１．教養教育科

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
共通基礎科目	基礎学修演習	1	前	1			1	
	教養演習	1	後		1		1	
	情報処理演習	1	前		1		1	
人間と宗教	キリスト教学概論	1	前	2		2		
	人間学	1	前	2		2		
	聖書の講読	2	前		▲2	2		
	宗教学	2	前		▲2	2		
	キリスト教学特論	1	後		▲2	2		
人間と文化	発達と学習の心理学	1	後		2	2		
	カウンセリング概論	1	後		2	2		
	倫理学	1	後		2	2		
	音楽概論	1	後		2	2		
	美術概論	1	後		2	2		
	民族と異文化理解	1	後		2	2		
人間と社会	法学（日本国憲法）	1	前		2	2		
	社会学	1	前		2	2		
	現代の経済	1	前		2	2		
	近現代の日本	1	後		2	2		
	生活と福祉	1	後		2	2		
	現代社会と生活	1	後		2	2		
	対人関係の心理学	1	前		2	2		
人間と自然科学	化学	1	前		2	2		
	生物学	1	前		2	2		
	統計処理 Ⅰ	1	後	2		2		
	統計処理 Ⅱ	2	前	2		2		
人間と外国語	英語 ⅠA	1	前	1			1	
	英語 ⅠB	1	後	1			1	
	英語 ⅡA	2	前		1		1	
	英語 ⅡB	2	後		1		1	
	オーラルイングリッシュ ⅠA	1	前	1			1	
	オーラルイングリッシュ ⅠB	1	後	1			1	
	オーラルイングリッシュ ⅡA	2	前		1		1	
	オーラルイングリッシュ ⅡB	2	後		1		1	
	フランス語	2	前		1		1	
健康とスポーツ	健康とスポーツ Ⅰ	1	前後		1			1
	健康とスポーツ Ⅱ	2	前後		1			1

◎は2009年度以降入学生対象科目と同一科目名

振替該当学生は時間割等確認のうえ履修計画を立てること

統計処理Ⅰ、統計処理Ⅱ：編3単独開講　　なお統計処理 Ⅰ は編3のみ前期に開講する

２．看護学科

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
専門基礎科目	栄養代謝学	1	前	2		2		
	形態機能学 Ⅰ	1	前	2		2		
	形態機能学 Ⅱ	1	前	2		2		
	病態治療学 Ⅰ	1	前	2		2		
	病態治療学 Ⅱ	1	後	2		2		
	看護薬理学	1	後	2		2		
	環境健康論	1	後	2		2		
	社会福祉論	1	後	2		2		
	生涯発達論	1	前	1		1		
専門科目	看護学原理	1	前	2		2		
	看護ケア提供システム論	1	後	1		1		
	基礎看護技術論 Ⅰ	1	前	1		1		
	基礎看護技術論 Ⅱ	1	後	2			2	
	基礎看護学臨地実習Ⅰ	1	後	1				1
	人間形成とキャリアデザインⅠ	1	前後	1		1		
	病態・治療学 Ⅱ	2	前	2		1	1	
	病態・治療学 Ⅲ-1	2	後	2		1	1	
	病態・治療学 Ⅲ-2	2	後	1			1	
	看護薬理学	2	前	1			1	
	環境生活科学論 Ⅰ	3	前	2		2		
	環境生活科学論 Ⅱ	3	後	1			1	
	医療と倫理	2	前	1		1		
	人間関係論	2	前	1			1	
	保健医療福祉システム論	3	後	2		2		
	ヘルスアセスメント	2	前	1			1	
	基礎看護技術論 Ⅳ	2	前	1			1	
	基礎看護技術論 Ⅴ	2	後	2			2	
	健康生活看護学（母性） Ⅰ	2	後	1		1		
	健康生活看護学（母性） Ⅱ	2	後	1		1		
	健康生活看護学（母性） Ⅲ	3	前	2			2	
	健康生活看護学（小児） Ⅰ	2	後	2		1	1	
	健康生活看護学（小児） Ⅱ	3	前	2		1	1	
	健康生活看護学（地域） Ⅰ	3	前	1		1		
	健康生活看護学（地域） Ⅱ	3	前	2		2		
	健康生活看護学（地域） Ⅲ	3	後	2			2	
	健康生活看護学（地域） Ⅳ	4	前		1		1	
	健康生活看護学（老年） Ⅰ	2	前	1		1		
	健康生活看護学（老年） Ⅱ	2	後	1		1		
	健康生活看護学（老年） Ⅲ	3	前	2			2	

２．看護学科

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
専門科目	健康生活看護学（成人）Ⅰ	2	前	1		1		
	健康生活看護学（成人）Ⅱ	2	後	2		1	1	
	健康生活看護学（成人）Ⅲ	2	後	1		1		
	健康生活看護学（成人）Ⅳ	3	前	2			2	
	健康生活看護学（精神）Ⅰ	2	後	1		1		
	健康生活看護学（精神）Ⅱ	3	前	1			1	
	健康生活看護学（精神）Ⅲ	3	後	1			1	
	リハビリテーション看護学	2	後	1			1	
	家族看護学 Ⅰ	3	前	2		2		
	家族看護学 Ⅱ	4	前		1		1	
	ホスピス・緩和ケア論	3	後	1		1		
	感染看護学	3	後	1		1		
	基礎看護学臨地実習 Ⅱ	2	後	2				2
	健康生活看護学臨地実習（母性）	3～4	後前	2				2
	健康生活看護学臨地実習（小児）	3～4	後前	2				2
	健康生活看護学臨地実習（地域）Ⅰ	4	後	2				2
	健康生活看護学臨地実習（地域）Ⅱ	4	後		2			2
	健康生活看護学臨地実習（老年）	3～4	後前	4				4
	健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅰ	3～4	後前	3				3
	健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅱ	3～4	後前	3				3
	健康生活看護学臨地実習（精神）	4	前又は後	2				2
	健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅰ	4	前	1				1
	健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅱ	4	前	1				1
	在宅看護臨地実習	4	前又は後	2				2
	看護倫理	4	前	1		1		
	看護研究の基礎	3	後	1		1		
	看護管理・看護政策論	4	後	1		1		
	看護教育学	4	前	1		1		
	生と死の看護ゼミ	3	後	1			1	
	英文文献講読 Ⅰ	3	後		1	1		
	英文文献講読 Ⅱ	4	前		1	1		
	在宅看護論 Ⅰ	3	前	1		1		
	在宅看護論 Ⅱ	3	後	1			1	
	国際看護論	4	後		1	1		
	医療人類学	4	後		1	1		
	統合看護演習	4	前後	2			2	

３．栄養学科

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
専門基礎科目	人間関係論	1・編3	前	1		1		
	生涯発達論	1・編3	前	2		2		
	生化学 Ⅰ	1	後	2		2		
	形態機能学 Ⅰ	1	前	2		2		
	形態機能学 Ⅱ	1	後	2		2		
	微生物学	1・編3	後	2		2		
	形態機能学実習 Ⅰ	1	後	1				1
	有機化学	1	前		2	2		
	食品科学 Ⅰ	1	前	2		2		
	食品科学 Ⅱ	1	後	2		2		
	調理学	1	前	2		2		
	食品科学実験 Ⅰ	1	後	1				1
	調理学実習 Ⅰ	1	前	1				1
	調理学実習 Ⅱ	1	後	1				1
専門科目	管理栄養士論	1・編3	前	1		1		
	基礎栄養学	1	後	2		2		
	公衆衛生学	2	前	2		2		
	健康管理概論	2・編3	後	2		2		
	保健医療福祉システム論	4・編4	前	1		1		
	公衆衛生学実習	2・編3	後	1				1
	医療概論	2	前		2	2		
	生化学Ⅱ	2・編3	前	2		2		
	病理学	2	前	2		2		
	病態診療学 Ⅰ	2・編3	後	2		2		
	病態診療学 Ⅱ	3・編3	前	2		2		
	生化学実験	2・編3	前	1				1
	形態機能学実習 Ⅱ	3・編3	後	1				
	食品衛生学	2	前	2		2		
	食品科学実験 Ⅱ	3	前	1				
	食品衛生学実験	2・編3	前	1				
	食品微生物学実験	2・編3	前	1				
	食品科学 Ⅲ	2・編4	後		2	2		
	環境食事論	4・編4	後		1	1		
	食文化論	4・編4	後		1	1		
	基礎栄養学実験・実習	2・編3	後	1				
	応用栄養学 Ⅰ	2・編3	前	2		2		
	応用栄養学 Ⅱ	2	後	2		2		
	応用栄養学 Ⅲ	3・編3	後	2		2		
	応用栄養学実習	3	前	1				

３．栄養学科

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
専門科目	国際栄養学	4・編4	後		1	1		
	免疫と栄養	3	後		1	1		
	スポーツ栄養学	3・編3	後		1	1		
	栄養教育論 Ⅰ	2	前	2		2		
	栄養教育論 Ⅱ	2・編3	後	2		2		
	栄養教育論 Ⅲ	3・編3	後	2		2		
	栄養教育論実習	3	前	1				
	カウンセリング演習	3	前		1		1	
	臨床栄養学Ⅰ	2・編3	後	2		2		
	臨床栄養学 Ⅱ	3	前	2		2		
	臨床栄養学 Ⅲ	3・編3	後	2		2		
	臨床栄養学 Ⅳ	4	前	2		2		
	臨床栄養学実習 Ⅰ	3	前	1				
	臨床栄養学実習 Ⅱ	3・編3	後	1				
	臨床栄養学実習 Ⅳ	4・編4	前	1				
	公衆栄養学 Ⅰ	3	前	2		2		
	公衆栄養学 Ⅱ	3・編3	後	2		2		
	公衆栄養学実習 Ⅰ	3・編3	後	1				
	地域栄養活動演習	4・編4	前		1		1	
	介護・看護演習	3・編3	前	1			1	
	給食経営管理論 Ⅰ	2	前	2		2		
	給食経営管理論 Ⅱ	2・編3	後	2			2	
	給食経営管理論実習 Ⅰ	2	後	1				
	フードサービス論	4・編4	前		1	1		
	フードサービス実習	4・編4	前		1			
	総合演習 Ⅰ	3・編3	前後	1			1	
	総合演習 Ⅱ	4・編4	前後	2			2	
	食といのちのゼミ	4・編4	後	1			1	
	英文文献講読	3	後		1		1	
	卒業研究	4・編4	前後		3			
	給食経営管理論実習 Ⅱ（学外実習）	3	後	1				
	臨床栄養学実習 Ⅲ（学外実習）	3・編3	後	2				
	公衆栄養学実習 Ⅱ（学外実習）	4・編4	前後		▲1			
	給食経営管理論実習 Ⅲ（学外実習）	4・編4	前後		▲1			
	臨床栄養学実習 Ⅴ（学外実習）	4・編4	前後		3			
	給食経営管理論実習 Ⅳ（学外実習）	4・編4	前後		1			
	学校栄養指導論 Ⅰ	3	前		2	2		
	学校栄養指導論 Ⅱ	3	後		2	2		

４．教職課程

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
教職課程科目	教職概論	1	前		2	2		
	教育原論	1	後		1	1		
	教育制度論	2	前		1	1		
	教育課程論	1	後		1	1		
	道徳教育論	2	後		1	1		
	特別活動論	2	後		1	1		
	教育方法論	2	前		1	1		
	生徒指導論	2	後		2	2		
	教職総合演習	3	後		2	2		
	栄養教育実習	4	前		1			1
	栄養教育実習事前事後指導	4	前		1			1

栄養学科で教職課程を登録した学生のみ履修することができます。

５．大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士前期課程）

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
基礎科目	倫理学特論	1	後	1		1		
	統計学特論	1	前	1			1	
	人間関係論特論	1	後	1		1		
	医療情報・管理学特論	1・2	後		2	2		
専門基礎科目	食品衛生学特論	1	前	2		2		
	食品学特論	1・2	後		2	2		
	食薬理学特論	1・2	前		2	2		
	栄養生理学特論	1・2	前		2	2		
	代謝栄養学特論	1	後	2		2		
	栄養免疫学特論	1・2	後		2	2		
	薬理学特論	1・2	前		2	2		
	保健医療福祉システム特論	1・2	後		2	2		
	家族関係論特論	1・2	前		2	2		
専門実践科目	栄養管理学特論	1	前	2		2		
	栄養疫学特論	1・2	後		2	2		
	健康行動理論	1	前	2		2		
	栄養診断学特論	1	後	2		2		
	栄養管理学総合演習	1	前後	2			2	
	臨床栄養学特論	1	前	2		2		
	栄養管理学特別研究	1～2	前後	4				4
	栄養管理学特別演習	1～2	前後	4			4	

６．大学院看護栄養学研究科　栄養管理学専攻（博士後期課程）

科目区分	授業科目	受講年次	学期	単位		区分		
				必修	選択	講義	演習	実習
共通	研　究　方　法　特　論	1	前後	4		4		
基礎系栄養管理学分野	基礎系栄養管理学特論	1	前		2	2		
	基礎系栄養管理学特別研究	1～3	前後		12			12
実践系栄養管理学分野	実践系栄養管理学特論	1	前		2	2		
	実践系栄養管理学特別研究	1～3	前後		12			12

7．大学院看護栄養学研究科　看護学専攻（修士課程）

科目区分		授業科目	受講年次	学期	修論コース 単位数		上級実践コース 単位数		○印CNS対象科目	授業区分		
					必修	選択	必修	選択		講義	演習	実習
基礎科目		看護理論特論	1	前	2		2		○	2		
		倫理学特論	1	後	2		2		○	2		
		看護研究法Ⅰ	1	前	2		2		○	2		
		看護研究法Ⅱ	1	後		1		1			1	
		看護研究法Ⅲ	1	後		1		1			1	
		統計学特論	1	前		1		1			1	
		看護教育学特論Ⅰ	1	前		2	2		○	2		
		看護教育学特論Ⅱ	1	後		1		1			1	
		看護管理学特論	1	後		2		2	○	2		
		コンサルテーション論	1	後		1	1		○	1		
		医療情報・管理学特論	1･2	後		2		2		2		
		看護政策論	2	後		1	1		○	1		
専門基礎科目		人間関係論特論	1	後		2		2		2		
		がん・緩和疾患病態学	1	前		2		2	○	2		
		薬理学特論	1	前		2		2	○	2		
		保健医療福祉システム特論	1	後		2		2		2		
		健康行動理論	1	前		2		2		2		
		代謝栄養学特論	1	後		2		2		2		
		家族関係論特論	1	前		2		2		2		
専攻分野専門科目	公衆衛生看護学コース	公衆衛生看護学特論Ⅰ	1	前	2					2		
		公衆衛生看護学特論Ⅱ	1	前	2					2		
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	1	前	2						2	
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	1～2	後前	2						2	
	ホスピス緩和ケア看護学コース	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅰ	1	前			2		○	2		
		ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅱ	1	前			2		○	2		
		ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅲ	2	前			2		○	2		
		ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅰ	1	前			2		○		2	
		ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅱ	1	後			2		○		2	
		ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅲ	1～2	後前			2		○		2	
特別看護研究			2	前後	8						8	
実習Ⅰ			1	後			4		○			4
実習Ⅱ			2	前			3		○			3
実習Ⅲ			2	前			3		○			3
課題研究			2	前後			2				2	

Ⅲ．学生数・奨学金の採用状況

在籍者数　　(2012年5月1日現在)

所属	学科・専攻	ｺｰｽ名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護栄養学部	看護学科		341	94 (8)	96 (4)	97 (2)	88 (2)	375 (16)	110.0%
	栄養学科		350	95 (0)	89 (2)	91 (1)	93 (1)	368 (4)	105.1%
		(うち編入生)	10	― ―	― ―	5 (0)	5 (1)	10 (1)	100.0%
小　　計			691	189 (8)	185 (6)	188 (3)	181 (3)	743 (20)	107.5%
助産学専攻科	助産専攻	助産基礎分野	60	18 ―	27 ―	― ―	― ―	45 ―	75.0%
		助産教育分野	20	3 ―	3 ―	― ―	― ―	6 ―	30.0%
小　　計			80	21 ―	30 ―	― ―	― ―	51 ―	63.8%
看護栄養学研究科	看護学専攻	ﾎｽﾋﾟｽ・緩和ｹｱ看護学ｺｰｽ	8	2 (0)	2 (0)	― ―	― ―	4 (0)	50.0%
		公衆衛生看護学ｺｰｽ	4	0 (0)	2 (0)	― ―	― ―	2 (0)	50.0%
		精神看護学ｺｰｽ	4	0 (0)	0 (0)	― ―	― ―	0 (0)	0.0%
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	3 (0)	1 (0)	― ―	― ―	4 (0)	66.7%
		博士後期課程	6	0 (0)	0 (0)	1 (0)	― ―	1 (0)	16.7%
小　　計			28	5 (0)	5 (0)	1 (0)	― ―	11 (0)	39.3%
合　　計			799	215 (8)	220 (6)	189 (3)	181 (4)	805 (20)	100.8%

社会人学生数　　(2012年5月1日現在)

所属	学　　科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	5 (1)	8 (0)	5 (0)	5 (0)	23 (1)
	栄養学科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
小　　計		5 (1)	8 (0)	6 (0)	5 (0)	24 (1)

奨学金の種類と採用数

対象	奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
全学生	天使大学貸与奨学金		月　額	30,000円	無利子貸与	37人
	日本学生支援機構奨学金	第一種	月　額	30,000円 または、自宅通学 54,000円 自宅外通学 64,000円	無利子貸与	109人
		第二種 （月額選択）	月　額	30,000円、50,000円 80,000円、100,000円 120,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	263人
2年次生以上	天使大学シスター川原ユキエ記念奨学金		年　額	看護学科　600,000円 栄養学科　500,000円	給付 返還不要	10人
	天使大学給付奨学金		年　額	200,000円	給付、返還不要	17人
1～3年次生	成績優秀者学業奨励金		年　額	50,000円	給付	6人
看学生	北海道看護職員養成修学資金		月　額	32,000円	道内特定施設に5年以上勤務の場合返還免除	34人
全学生	その他の奨学金					6人
合　　計						482人

Ⅳ．国家試験合格率

国家試験合格率

学　部・学　科	国家試験の名称	受験者数（A）	合格者数（B）	合格率（%） B/A*100	全国合格率 （%）
天使大学大学院　助産研究科	助産師国家試験	25　人	25　人	100.0%	98.1%
看護栄養学部　看護学科	看護師国家試験	86　人	85　人	98.8%	94.1%
看護栄養学部　看護学科	保健師国家試験	86　人	85　人	98.8%	97.5%
看護栄養学部　栄養学科	管理栄養士国家試験	89　人	82　人	92.1%	38.5%

Ⅴ．就職・進学状況

学科別就職希望者（2013年3月31日現在）

〔学科別就職希望者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	78	90.7%	2	2.3%	80	93.0%	87	96.7%	1	1.1%	88	97.8%
	希望無しの者	6	7.0%	0	0.0%	6	7.0%	2	2.2%	0	0.0%	2	2.2%
計(卒業者数)		84	83.0%	2	2.3%	86	100.0%	89	98.9%	1	1.1%	90	100.0%

〔学科別就職決定者〕

学科	看護学科						栄養学科					
性別	女子		男子		計		女子		男子		計	
項目	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合
決定数／決定率	78	97.5%	2	2.5%	80	100.0%	71	80.7%	1	1.1%	72	81.8%

〔地域別・就職別決定者〕

学科		看護学科 n＝80						栄養学科 n＝72					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業者に対する割合
地域別	道外	19	23.8%	1	1.3%	**20**	25.0%	5	6.9%	0	0.0%	**5**	6.9%
	道内	59	73.8%	1	1.3%	**60**	75.0%	66	91.7%	1	1.4%	**67**	93.1%
	市内(再掲)	(54)	(67.5%)	(1)	(1.3%)	**(55)**	(68.8%)	(47)	(65.3%)	(0)	(0.0%)	**(47)**	(65.3%)
職種別	看護師	76	95.0%	2	2.5%	**78**	97.5%						
	保健師	1	1.25%	0	0.0%	**1**	1.3%						
	栄養士・管理栄養士							53	73.6%	1	1.4%	**54**	75.0%
	栄養教諭							5	6.9%	0	0.0%	**5**	6.9%
	上記以外	1	1.25%	0	0.0%	1	1.25%	13	18.1%	0	0.0%	**13**	18.1%

〔進学状況〕

学科	看護学科				栄養学科			
性別	女子	男子	計	進学希望者に対する割合	女子	男子	計	進学希望者に対する割合
進学希望者数	5	0	5		1	0	1	
進学合格者数	5	0	5	100%	1	0	1	100%

※卒業留年者反映済み

※看護前期卒業者反映済み

※看護学科1名就職しない　看護学科1名看護助手アルバイト　栄養学科1名就職しない

2012年度求人件数・人数（2013年3月31日現在）

〔看護職〕

職　種	件　数					人　数				
	（市内）	道内	道外	全国	件数合計	（市内）	道内	道外	全国	人数合計
看護師	50	105	312	0	417	1,142	1,883	16,717	0	18,600
保健師	11	51	58	0	109	34	106	313	0	419
助産師	12	32	159	0	191	37	98	886	0	984
計	73	188	529	0	717	1,213	2,087	17,916	0	20,003

〔栄養士職〕

職　種	件　数					人　数				
	（市内）	道内	道外	全国	件数合計	（市内）	道内	道外	全国	人数合計
栄養士	35	63	11	0	74	71	105	143	0	248
管理栄養士	42	98	17	0	115	128	196	83	0	279
栄養教諭	0	1	2	0	3	0	1	7	0	8
計	77	162	30	0	192	199	302	233	0	535

〔一般職・その他〕

職　種	件　数					人　数				
	（市内）	道内	道外	全国	件数合計	（市内）	道内	道外	全国	人数合計
一般	38	73	95	0	168	1,518	1,876	5,714	0	7,590

合計	188	423	654	0	1,077	2,930	4,265	23,863	0	28,128

注1　（市内）は道内の内数
注2　道内＋道外＋全国=合計
注3　全国は勤務先が道内・道外に限定されない場合
注4　若干名は3とカウントする
注5　保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

Ⅵ. 2013年度入試結果

2013年度天使大学・大学院入学試験結果

看護栄養学部

＊（　）は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
指定校推薦	40	7	(5)	7	(5)	7	(5)	7	(5)	1.0
公募制推薦		54	(53)	54	(53)	33	(35)	33	(35)	1.6
社会人	37	16	(25)	16	(25)	7	(6)	6	(5)	2.3
一　般		306	(318)	302	(315)	64	(66)	43	(38)	4.7
センター利用	10	142	(130)	142	(130)	25	(25)	10	(10)	5.7
総　計	87	525	(531)	521	(528)	136	(137)	99	(93)	3.8

◆栄養学科

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
指定校推薦	45	4	(5)	4	(5)	4	(5)	4	(5)	1.0
公募制推薦		50	(51)	50	(51)	38	(40)	38	(40)	1.3
社会人	30	3	(1)	3	(1)	0	(1)	0	(0)	—
一　般		116	(101)	116	(101)	41	(42)	35	(36)	2.8
センター利用	10	94	(59)	94	(59)	18	(18)	9	(14)	5.2
総　計	85	267	(217)	267	(217)	101	(106)	86	(95)	2.6

◆栄養学科（3年次編入）

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
	5	5	(5)	5	(5)	5	(5)	5	(5)	1.0

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
前期	8	4	(1)	4	(1)	3	(1)	3	(1)	1.3
後期		2	(1)	2	(1)	1	(1)	1	(1)	2.0
総　計	8	6	(2)	6	(2)	4	(2)	4	(2)	1.5

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
前期	3	2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0
後期		1	(4)	1	(4)	1	(4)	1	(3)	1.0
総　計	3	3	(4)	3	(4)	3	(4)	3	(3)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
後期		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
総　計	2	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0

大学院 助産研究科

試験種別		定員（名）	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率（受/合）
基礎分野	推薦	10	7	(8)	7	(8)	6	(7)	6	(7)	1.2
	前期一般	15	14	(13)	14	(13)	12	(11)	7	(9)	1.2
	前期社会人		7	(2)	7	(2)	6	(2)	4	(2)	1.2
	後期一般	5	2	(2)	2	(2)	2	(1)	2	(0)	1.0
	後期社会人		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
教育分野	前期	10	4	(3)	4	(3)	4	(3)	4	(3)	1.0
	後期		0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
総　計		40	35	(28)	35	(28)	31	(24)	24	(21)	1.1

Ⅶ. 教員組織

教員組織一覧　　(2012年5月1日現在)

所属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	8人	5人	0人	2人	0人	15人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	28人
看護栄養学部	看護学科	8人	7人	7人	6人	1人	29人
	栄養学科	7人	6人	5人	2人	5人	25人
	教養教育科	2人	4人	1人	0人	0人	7人
	計	17人	17人	13人	8人	6人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	109人
合計		25人	22人	13人	10人	6人	213人

専任教員年齢構成　　(2012年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計
助産研究科	教　授	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	8
		12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5
		0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
	計	1	2	4	3	3	0	0	0	2	0	15
		6.7%	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	100%
	助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%
小計		1	2	4	3	3	0	0	0	2	0	15
		6.7%	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教　授	1	4	7	3	2	0	0	0	0	0	17
		5.9%	23.5%	41.2%	17.6%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	2	4	1	7	3	0	0	0	17
		0.0%	0.0%	11.8%	23.5%	5.9%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	1	1	1	4	4	2	0	0	13
		0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%	30.8%	30.8%	15.4%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	2	3	3	0	8
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100%
	計	1	4	10	8	4	11	9	5	3	0	55
		1.8%	7.3%	18.2%	14.5%	7.3%	20.0%	16.4%	9.1%	5.5%	0.0%	100%
	助手	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%	100%
小計		1	4	10	8	4	11	9	6	4	4	61
		1.6%	6.6%	16.4%	13.1%	6.6%	18.0%	14.8%	9.8%	6.6%	6.6%	100%
合計		2	6	14	11	7	11	9	6	6	4	76
		2.6%	7.9%	18.4%	14.5%	9.2%	14.5%	11.8%	7.9%	7.9%	5.3%	100%

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

（2012年3月31日現在）

学科・科	採　用　者					昇任者		退　職　者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	1人	2人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	1人
看護学科	0人	0人	1人	1人	2人	0人	0人	2人	2人	2人	3人	0人
栄養学科	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	3人	0人	1人	0人	0人
教養教育科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	1人	2人	2人	1人	3人	0人	1人	6人	2人	3人	5人	1人

Ⅷ. 事務組織

（2012年5月1日現在）

区分	部門	専任職員	うち管理職	常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
法人業務	法人事務局長	1	1	0	0	0	0	1
	計	1	1	0	0	0	0	1
大学業務系	事務局長	1	1	0	0	0	0	1
	総務課	6	1	7	8	0	1	22
	学務課	6	1	2	5	0	0	13
	図書情報課	4	1	2	0	0	2	8
	計	17	4	11	13	0	3	44
合計		18	5	11	13	0	3	45

Ⅸ. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会　科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	代表者名	研究課題名	種別
1	看護学科教授 茎津　智子	身近な人と死別した子どもへのグリーフケアとその評価	基盤C 継続採択
2	看護学科准教授 長谷川　真澄	急性期病院における高齢者せん妄ケアシステムの構築	基盤C 継続採択
3	看護学科准教授 草薙 美穂	若年の母親への育児支援－母子相互作用促進のための縦断的介入研究	基盤C 継続採択
4	看護学科准教授 針金　佳代子	３歳児と母親が健康な食生活を形成していくための家族支援プログラムの開発	基盤C 新規採択
5	看護学科講師 島　明子	中高年女性の「健康統御力」の形成過程とソーシャルキャピタルの影響に関する研究	基盤C 継続採択
6	看護学科講師 鳥谷　めぐみ	軽症脳卒中患者の再発予防に向けた教育支援プログラムの開発	挑戦的萌芽研究 新規採択
7	栄養学科教授 斉藤　昌之	ヒト褐色脂肪：寒冷刺激による活性化とエネルギー消費との関係	基盤C 継続採択
8	栄養学科准教授 佐藤　香苗	透析患者のQOL向上を実現するアクティブライフスタイル教育プログラムの開発と運用	基盤C 継続採択
9	栄養学科准教授 鈴木　純子	CD36欠損者の高糖質・低脂質食による代謝変化に関する研究	基盤C 新規採択
10	教養教育科准教授 堀井　泰明	徳としてのケアリングを基盤とする看護倫理学の構築	基盤C 新規採択

特別研究費の助成状況

	氏名	研究課題名
1	助産研究科助教 宮本　涼子	拓殖産婆の活動－北海道の地域特性・社会的背景との関連
2	看護学科教授 須藤　桃代	道東別海地区の地域母子保健を支えた助産師の活動
3	栄養学科教授 荒川　義人	北海道産ハスカップ、マタタビ、サルナシおよびアロニアの果実に組まれるシステインプロティアーゼの構造および機能解析に関する研究
4	栄養学科教授 大久保　岩男	「天使健康栄養クリニック」の開設継続によるメタボリックシンドロームの臨床栄養学的研究並びに健康行動変容研究を通じた大学院生と学部学生と実践的教育
5	栄養学科準教授 鈴木　純子	生活習慣病の予防・改善のための指導力を養う卒後教育プログラムの構築とその評価－e-ラーニングを活用した卒後教育の可能性
6	栄養学科准教授 金澤　康子	ハマナス茶の創製と食後血糖値上昇抑制効果の検討
7	栄養学科助教 木田　春代	幼児期における野菜栽培が幼児の野菜嗜好ならびに母親が行う食教育に及ぼす影響
8	栄養学科助教 長谷川　めぐみ	リステリア菌の疫学的研究－特に、肉牛由来リステリア菌の分子疫学的研究
9	教養教育科准教授 川口　雄一	遠隔利用ストリーミング教材配信基盤の構築

受託研究等

	代表者名	研究課題名	種別
1	栄養学科教授 荒川　義人	音更町第１次食育・地産地消促進計画の監修及び編集に係る委託業務	受託事業
2	栄養学科教授 荒川　義人	北海道食品の輸出に向けた味覚の国際比較調査及び国際マーケティング調査	受託事業
3	栄養学科教授 荒川　義人	北海道産昆布のペーストを原料とした試作製品の成分評価	受託研究
4	栄養学科教授 大久保　岩男	看護栄養学部栄養学科の教育・研究発展に対する助成	奨学寄付
5	栄養学科教授 大久保　岩男	鰹だし汁のヒト介入試験による機能性評価	受託研究
6	栄養学科教授 斉藤　昌之	栄養代謝と肥満・メタボリックシンドロームに関する研究に対する助成	奨学寄付
7	栄養学科教授 斉藤　昌之	ヒト褐色脂肪に対する辛味刺激の効果に関する研究に対する助成	奨学寄付
8	栄養学科教授 斉藤　昌之	ヒト褐色脂肪活性化の新しい刺激方法の探索に関する研究	受託研究
9	栄養学科教授 斉藤　昌之	マニゲット抽出物の長期摂取がヒト褐色脂肪活性に及ぼす影響について（２）	受託研究
10	栄養学科教授 斉藤　昌之	健康飲料の褐色脂肪組織に及ぼす影響の検討	受託研究
11	栄養学科教授 高島　郁夫	アンチエージング機能を付加した新規ヨーグルトを創出するための牛初乳からの乳酸菌の探索と製品開発	受託研究
12	栄養学科准教授 山口　敦子	平成２４年度すいかテクスチャーの機器分析による評価法の開発に係る食味官能検査業務	受託事業
13	栄養学科准教授 佐藤　香苗	平成２４年度幼児の食生活環境評価方法の開発に向けた調査委託研究	受託研究

ＦＤ・ＳＤの実施状況

分類	日時	テーマ	内容
ＦＤ研修会	2012年8月24日（金）	学習意欲を高める授業づくりーシラバスの効果的な作成法	名古屋大学高等教育研究センターの近田政博氏を講師に迎え、シラバスの作成法について研修を学んだ。
	2013年3月6日（水）	シラバス（授業計画書）を実際につくってみよう	北海道大学高等教育推進機構の細川敏幸氏を講師に迎え開催した。グループワークを展開し、実際にシラバスを作成した。
ＳＤ研修会	2012年9月4日（火）	・2011年度監査報告、大学基準協会の評価結果について ・事務改善等について	認証評価について評価結果や課題を共有した。また、事務の改善を目的とした意見交換会を実施した。

公開講座の実施状況

日時	テーマ	内容
2012年8月23日（木） 〜 2012年9月20日（木）	いのちみつめて ―毎日を楽しく健康に生きる知恵―	毎日を楽しく健康に暮らすために、食事や運動、笑い、漢方薬、頭の体操等について解説した講演会を実施。北海道薬科大学との連携である。

その他の活動

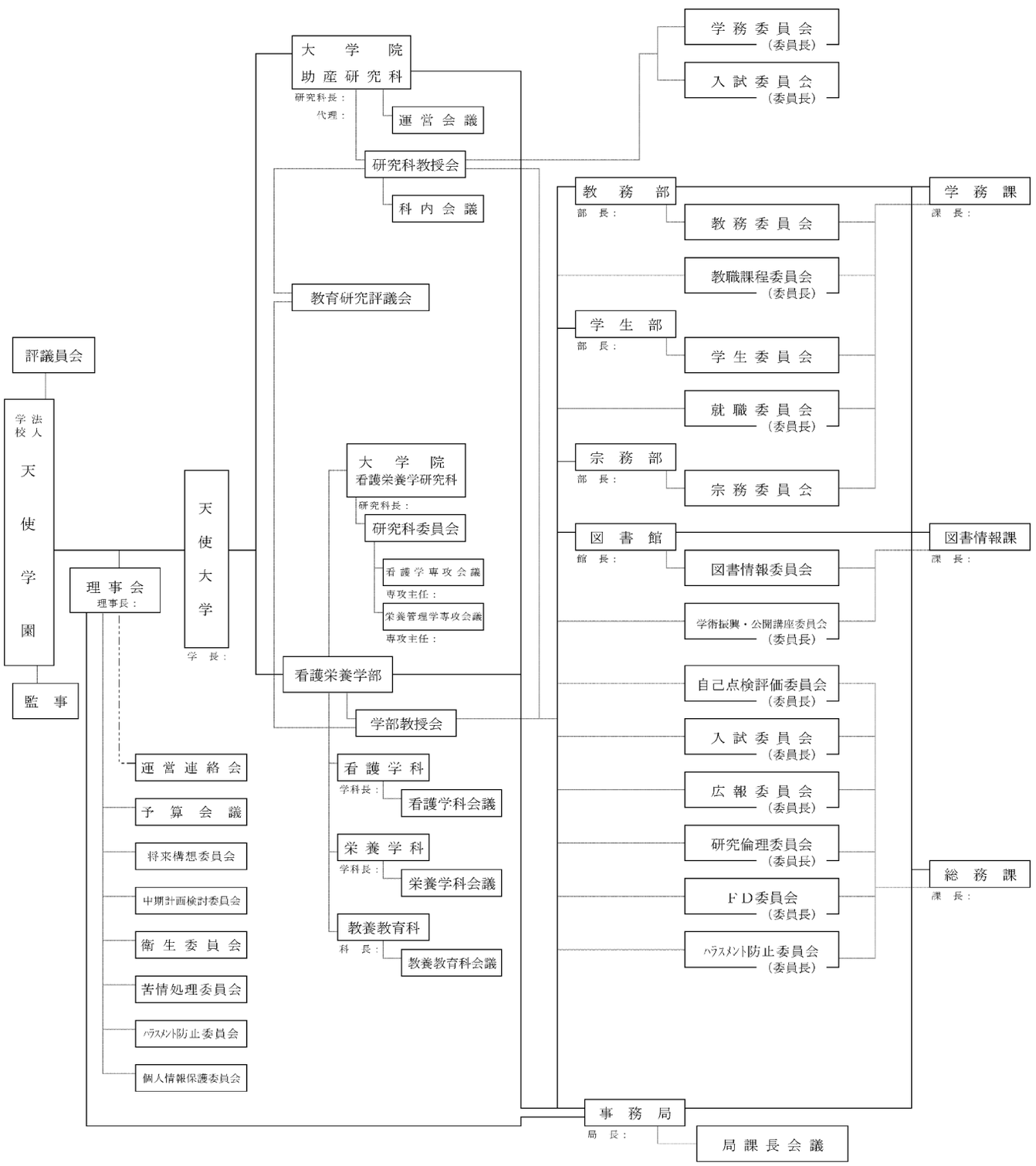
分類	活動内容
東日本大震災復興支援プロジェクト	1. ボランティア活動支援 被災地でのボランティア活動へ延べ25名の学生が参加。 2. ボランティア活動報告会の実施 2012年6月20日、2013年1月15日の2回、被災地でボランティア活動に従事した学生の活動報告会を実施 3. アレンジレシピ集の作成 「アレンジレシピ集〜1つの料理がこんなに変わる」を発行。みやぎ心のケアセンターや仙台教区へ送付した。 4. 天使祭へ出展 2012年6月16日の天使祭でパネル展示、被災地の産物販売等を実施した。
コープさっぽろとの連携	産学連携プロジェクトとして料理レシピの共同開発、食品表示検定試験等を協力して実施。
レシピブックの発行	看護学科・栄養学科の学生によるレシピ「天使大学のレシピbook Vol.1〜学生から家族に贈る健康レシピ33」を発行。

X．組織図

学 校 法 人 天 使 学 園

天使大学 大学院・看護栄養学部

管理運営組織図（2012年4月1日）



XI. 会議の開催状況

看護栄養学部 教授会

回	開催年月日	審議･報告事項
1	2012年4月10日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱・変更について ２．看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について ３．栄養学科専任教員の採用に係る募集大綱について ４．専任教員の新規担当科目について（2012年度以降開講科目） [報告事項] １．2012年度ｲｰｽｰﾀｰのﾐｻ及び御ﾐｻの予定について ２．2012年度合唱ｺﾝｸﾙｰﾙの実施について ３．2012年度学校医・精神神経科医について ４．2012年度学生相談室開室時間・相談員の変更について ５．各種規程等の一部改正について ６．各委員会報告について ７．その他
2	2012年5月8日（火）	[審議事項] １．2012年度ｸﾗﾌﾞ活動団体等について ２．奨学金の新設予定について ３．2012年度教授会構成員の再報告について ４．教員研究室以外の部屋等の使用変更について ５．天使大学ｷｬﾝﾊﾟｽ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄの防止と解決に関する規程の一部改正について ６．各委員会報告について ７．その他
3	2012年6月12日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱・取消について ２．休学願の許可について ３．天使大学学則の一部改正について ４．天使大学教授会規程の一部改正について [報告事項] １．奨学金の新設について ２．2011年度学校法人天使学園・天使大学事業報告および会計収支決算について ３．各委員会報告について ４．その他
4	2012年7月10日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱について ２．2012年度非常勤講師の委嘱時間の変更について ３．休学願の許可について ４．復学願の許可について ５．2012年度科目等履修生の受入れについて ６．学業成績優秀者奨励金に関する規程および兄弟姉妹同時在学時授業料免除に関する規程の制定について ７．天使大学教授会規程の一部改正について [報告事項] １．2012年度学事暦の変更について ２．2012年度海外研修旅行ついて ３．天使大学奨学金規程ついて ４．2012年度学校法人天使学園第１次補正予算について ５．2010年度および2011年度大学院の決算について ６．2012年度特別研究費の交付採択ついて ７．各委員会報告について ８．支援プロジェクト通信第10号について ９．（財）大学基準協会の大学評価（認証評価）結果における課題の検討部署ついて 10．その他

回	開催年月日	審議･報告事項
5	2012年9月11日（火）	[審議事項] １．2012年度前期卒業判定について ２．2012年度非常勤講師の委嘱について ３．休学願の許可について ４．復学願の許可について ５．退学願の許可について ６．2012年度既修得単位の授与について ７．栄養学科専任教員の採用に係る募集大綱について ８．天使大学教員の採用及び昇任の選考に関する規程の一部改正について ９．教員選考委員会規程の一部改正について [報告事項] １．今後の行事予定について ２．2012年度講演会の開催について ３．2012年度教職員修養会の実施ついて ４．教員の手続きの開始について ５．2012年度ＪＩＣＡ「英語圏アフリカ地域母子保健人材育成コース」研修生の受入について ６．天使大学教授会規程および天使大学教育研究評議会規程について ７．2012年度前期卒業証書・学位記授与式の実施要領について ８．各委員会報告について ９．支援プロジェクト通信第10号について
6	2012年10月9日（火）	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．休学願の許可について ３．履修規程の改正について ４．天使大学学則の改正に伴う学内諸規程の一部改正について ５．看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について [報告事項] １．初年次教育等ワーキング・グループの解散とその後の業務引継ぎについて ２．2012年度フードアンドライフ　ステップアップセレモニーの実施要領について ３．各種委員会報告について ４．その他
7	2012年11月13日(火)	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．休学願の許可について ３．2013年度学事歴について ４．看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について [報告事項] １．専任教員の新規担当科目（2013年度以降開講科目）について ２．今後の宗務行事予定について ３．2012年度体育祭の実施について ４．2012年度天使大学海外研修プログラムの中止について ５．2012年度天使学園第2次補正予算について ６．天使大学ハラスメント防止および問題解決のためのガイドラインについて ７．2012年度戴帽式の実施要領について ８．東日本大震災復興支援プロジェクト企画による学生ボランティア報告会の実施について ９．各種委員会報告について 10．その他
8	2012年12月11日(火)	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．休学願の許可について [報告事項] １．各種委員会報告について ２．教員募集および選考人事に関して ３．その他

回	開催年月日	審議･報告事項
9	2013年1月15日(火)	[審議事項] １．看護学科専任教員の採用にかかる募集大綱について ２．2013年度非常勤講師の委嘱・取消について ３．2014年度学部入学試験日程について [報告事項] １．2013年度学事暦の変更について ２．2013年度以降の履修登録者がいない場合の取扱いについて ３．2013年度以降の履修登録者数の下限設定について ４．2013年度以降の授業評価アンケートの実施について ５．2013年度からの一般入学試験学科試験の得点調整について ６．2012年度年報の作成について ７．2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座について ８．各種委員会報告について ９．その他
10	2013年2月13日(水)	[審議事項] １．2013年度一般入学試験（栄養学科）の合否判定について ２．履修規程の一部改正について ３．開講科目の英語名称について ４．2013年度開講学期等の変更について ５．2013年度非常勤講師の委嘱・取消について ６．2014年度学事暦について [報告事項] １．栄養学科教員（助手）の再任について ２．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） ３．2013年度学事暦の変更について ４．2012年度第2回ＦＤ研修会の開催について ５．各種委員会報告について
臨時1	2012年4月2日(木)	[審議事項] １．看護学科新旧教育課程の科目振替について ２．2012年度公務分掌・委員会構成について [報告事項] １．2012年度入学試験に係る追加合格について ２．委員会の廃止及び設置について ３．2011年度教授会構成員について ４．2011年度学園・大学事業計画及び当初予算について ５．2011年度卒業生の就職状況について ６．その他
臨時2	2012年5月1日(火)	[審議事項] １．学校法人天使学園懲戒委員会について
臨時3	2012年9月21日(金)	[審議事項] １．看護学科専任教員の採用に係る募集大綱について ２．栄養学科専任教員の採用に係る募集大綱について
臨時4	2012年11月21日(水)	[審議事項] １．2013年度指定校推薦入学試験、公募制推薦入学試験、社会人入学試験ならびに栄養学科編入学試験の合否判定について
臨時5	2012年12月18日(水)	[審議事項] １．教員の懲戒処分に係る2012年12月11日開催の教授会決議に対する再提案について
臨時6	2013年2月19日(火)	[審議事項] １．2013年度一般入学試験（看護学科）の合否判定について ２．2013年度非常勤講師の委嘱・取消ついて ３．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） [報告事項] １．2012年度天使大学卒業証書・学位記授与式実施要領について ２．今後の行事予定について
臨時7	2013年2月26日(火)	[審議事項] １．2013年度大学入学ｾﾝﾀｰ試験利用入学試験（看護学科・栄養学科）の合否判定について ２．天使大学大学院学則の一部改正(案)について [報告事項] １．研究倫理委員会報告

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時8	2013年3月1日（金）	［審議事項］ １．2012年度卒業判定について ２．休学願の許可について ３．復学願の許可について ４．2013年度科目等履修生の受け入れについて ５．2013年度非常勤講師の委嘱について ６．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） ［報告事項］ １．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） ２．その他
臨時9	2013年3月19日（火）	［審議事項］ １．天使大学大学院学則の一部改正に対する意見について
臨時10	2013年3月21日（金）	［審議事項］ １．2012年度進級判定について ２．復学願の許可について ３．退学願の許可について ４．2013年度非常勤講師の委嘱・取消について ５．2013年度既修得単位の認定・授与について ［報告事項］ １．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） ２．学籍上の変更が生じた指定校推薦入学者に関する出身高等学校への対応等について ３．2013年度天使大学入学式実施要領について ４．各委員会報告

看護栄養学研究科 研究科委員会

回	開催年月日	審議･報告事項
1	2012年4月10日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱について ２．2012年度開講科目及び担当教員について ３．2012年度開講科目及び担当教員について [報告事項] １．2012年度看護栄養学研究科委員会構成員について
2	2012年5月8日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱について ２．2012年度専任教員の新規担当科目について ３．2012年度前期特別聴講学生の受入について ４．2012年度看護学専攻２年次学位論文研究計画書の審査について ５．2013年度看護栄養学研究科学生募集要項について [報告事項] １．栄養管理学専攻博士前期課程１年次の指導教員について ２．2012年度看護栄養学研究科委員会構成員の再報告について
3	2012年6月12日（火）	[審議事項] １．大学院の専任教員の新規授業科目担当および非常勤講師の採用の審査に関する申合せの一部改正について [報告事項] １．2013年度以降の大学院看護栄養学研究科の学費について ２．2012年度学事暦の変更について ３．栄養管理学専攻博士前期課程１年次の指導教員について ４．2012年度栄養管理学専攻博士前期課程学位論文中間発表会の実施について ５．栄養管理学専攻博士後期課程学位授与に係る学位論文の「公表」について
4	2012年7月10日（火）	[審議事項] １．2012年度非常勤講師の委嘱取消について ２．2012年度栄養管理学専攻修了判定に関る取組予定について [報告事項] １．第２回研究交流会について ２．2012年度看護学専攻専門看護師【がん看護専攻教育課程】の申請について
5	2012年9月11日（火）	[審議事項] １．2012年度前期栄養管理学専攻博士後期課程の修了判定について ２．休学願の許可について ３．2012年度特別講師の委嘱について ４．2012年度研究生の研究期間延長の許可について [報告事項] １．2012年度以降の長期履修学生の入学手続きについて
6	2012年11月13日(火)	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．2013年度長期履修学生申請の許可について [報告事項] １．論文博士英語試験、論文提出による学位申請について
7	2012年12月11日(火)	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．2013年度学事暦（案）について [報告事項] １．2012年度学位論文関連スケジュールについて
8	2013年1月15日(火)	[審議事項] １．2014年度看護栄養学研究科入学試験日程について ２．看護栄養学研究科の３方針（案）について ３．2013年度非常勤講師の委嘱について [報告事項] １．2012年度学事暦及び2013年度学事暦（案）の変更について ２．2012年度看護栄養学研究科ＦＤ研修会の実施について ３．2012年度学位論文関連スケジュールについて（一部変更） ４．その他

回	開催年月日	審議・報告事項
9	2013年2月13日(水)	[審議事項] １．2013年度非常勤講師の委嘱について ２．2013年度特別講師の委嘱について ３．研究生の研究指導教授の変更について ４．専任教員の新規担当科目について（2013年度以降担当） [報告事項] １．看護栄養学研究科の３方針（案）について ２．2012年度大学院ＦＤ研修会の実施について ３．その他
臨時1	2012年9月27日（木）	[審議事項] １．2013年度看護学専攻修士課程前期試験の合否判定について ２．2013年度栄養管理学専攻博士前期課程前期試験の合否判定について
臨時2	2013年1月29日（火）	[審議事項] １．2013年度看護学専攻修士課程後期試験の合否判定について ２．2013年度栄養管理学専攻博士前期課程・博士後期課程後期試験の合否判定について ３．論文博士英語試験の合否判定について ４．2012年度看護学専攻 課題研究論文の主査及び副査について ５．2012年度栄養管理学専攻 修士論文の主査及び副査について ６．2013年度非常勤講師の委嘱について
臨時3	2013年2月26日(水)	[審議事項] １．天使大学大学院研究科委員会規程の一部改正(案)について
臨時4	2013年3月1日（金）	[審議事項] １．2012年度修了判定について ２．休学願の許可について ３．2013年度非常勤講師の委嘱・変更について ４．2013年度専任教員の新規担当科目について ５．2013年度科目等履修生の受け入れについて [報告事項] １．2012年度看護学専攻学位論文審査報告書について ２．2012年度栄養管理学専攻学位論文審査報告書について ３．その他
臨時5	2013年3月21日(金)	[審議事項] １．専任教員の新規担当科目について
臨時6	2013年3月27日(水)	[審議事項] １．天使大学大学院学則の一部改正について

ＸⅡ．委員会構成一覧

２０１２年度　校務分掌　委員会構成一覧

教育研究評議会	学　長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長 助産研究科教務委員長

区分	委員会名	委員長	委員	人数	委員任期	担当事務局
常設委員会	教務委員会	菅原（邦	教務部長：菅原(邦)　看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教職課程委員長 看護：大野　栄養：山口　教養：目時	8	2年	学務課
	学生委員会	山　部	学生部長：山部　看護：柴田・木津　栄養：金澤・岩渕　教養：川口	6	2年	学務課
	宗務委員会	沢	宗務部長：　沢　看護：スレイマン　栄養：岡部・松下　教養：小原 助産：今崎　事務局：白石、菊池	8	2年	学務課
	図書情報委員会	大久保	図書館長：大久保　看護：鹿内・久賀　栄養：勝野・長谷川(め)　教養：目時 助産：宮本　事務局：平野	8	2年	図書情報課
	入試委員会	荒　川	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長 看護：長谷川(真)　栄養：西　教養：田島　事務局：照井	6	2年	総務課
	広報委員会	鈴木(純)	看護：吉田(礼)・鳥谷　栄養：勝野・吉田(真)　教養：堀井　助産：津田　事務局：照井	8	2年	総務課
	自己点検評価委員会	茎　津	看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長 看護：小島　栄養：西　教養：田島　助産：園生	9	2年	総務課
	ＦＤ委員会	田　島	看護：北村　栄養：佐藤　教養：小原　助産：本宿	5	2年	総務課
	学術振興委員会	高　島	看護：島　栄養：森谷　教養：小原　助産：平山	5	2年	図書情報課
	地域連携等委員会	山　口	看護：針金　栄養：岡部　教養：川口　助産：津田	5	2年	学務課
	就職委員会	瀧	看護：瀧・草薙　栄養：菅原(千)・百々瀬　教養：相内　助産：今崎	6	2年	学務課
	教職課程委員会	伊　藤	教職科目担当：山部・百々瀬・菅原(千)・相内	5	2年	学務課
	研究倫理委員会	堀　井	助産研究科長、看護栄養学研究科長 看護：茎津　栄養：斉藤　教養：堀井　学長指名：鈴木(純)	6	2年	総務課
	ｷｬﾝﾊﾟｽ・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ対策委員会	須　藤	学生部長、看護：須藤　栄養：山部　教養：伊藤　助産：平山　事務局長　職員：平野	6	2年	総務課
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護：鹿内　栄養：小林　教養：小原　助産：	5	2年	学務課
	個人情報保護委員会	その都度	助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、教務部長、事務局長	7	2年	総務課

看護：学生支援教員	1年：　◎大野・吉田(礼)・茎津・木津・久賀・島・北村・臺野	2年：　◎久川・菅原(邦)・針金・鹿内・小日向・前田(尚)・武藤
	3年：　◎鳥谷・瀧・須藤・柴田・小島	4年：　◎草薙・長谷川(真)・原田・小澤
栄養：学生支援教員	1年：　◎山口・金澤・吉田(真)・百々瀬・岩渕・高桑	2年：　◎勝野・高島・鈴木(純)・岡部・木田・古川
	3年：　◎佐藤・山部・長谷川(め)・松下・和田	4年：　◎西・大久保・小林・菅原(千)・白幡

◎　大学院看護栄養学研究科の科長・専攻主任

研究科長：大久保 岩男	看護学専攻主任：吉田 礼維子	栄養管理学専攻主任：佐藤 香苗

◎　大学院助産研究科の科長・委員会等

研究科長：園生陽子

区分	委員会等名	委員長等	委員
常設機関	運営会議	研究科長	研究科長、教授職
	研究科会議	研究科長	教授会構成員

区分	委員会等名	委員長	委員
常設機関	教務委員会	平　山	(教務)園生、平山、津田 (実習)本宿、宮本　(学生)今崎、本宿
	入試委員会	津　田	本宿

◎　理事会設置の委員会

区分	委員会名		委員長	委員	人数	任期	担当事務局
常設委員会	運営連絡会		理事長	学長、副理事長（２名）、常務理事（総務担当理事）、財務担当理事、看護栄養学研究科長、助産研究科長、学内評議員：菅原(邦)、荒川、沢、園生、久保、法人事務局長	12	1年	総務課
	将来構想委員会		理事長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、教職員で理事・評議員：菅原(邦)、荒川、沢、園生、久保、法人事務局長	11		
	衛生委員会		学　長	産業医：樟本（天使病院）、看護：久川　栄養：勝野　教養：川口　事務局：豊島　(保健師)加藤	7		
	苦情処理委員会	委　員	互　選	理事長指名：教員＝別途決定　職員：別途決定　教授会選考：別途決定　職員会議選考：別途決定			
		代理委員	その都度互選	理事長指名：教員＝別途決定　職員：別途決定　教授会選考：別途決定　職員会議選考：別途決定			
	懲戒委員会		理事長指名	理事長が任命する５名	5		
	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止委員会		理事長	(理事)菊地、曽我、山本、菅原、　(教員)前田(明)、堀井　(職員)：白石	7		
	個人情報保護委員会		互　選	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出)：菅原、事務局長	5		

Ⅻ．委員会の活動報告

２０１２年度　教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：菅原邦子 委　員：前田明子・荒川義人・田島忠篤・伊藤進・大野和美・山口敦子・目時光紀
委員会開催数	14　回
審議・報告事項	
［主な審議事項］ ・卒業判定について（前期卒業及び年度卒業） ・教職課程修了判定について ・進級判定について ・看護学科 3 年次生の後期臨地実習履修判定について ・栄養学科 3 年次生の後期臨地実習履修判定について ・栄養教育実習の履修判定について ・追実習願について ・休学願・復学願・退学願許可について ・科目等履修生の受け入れについて（当該年度及び次年度） ・既修得単位の認定・授与について（当該年度及び次年度） ・開講科目の学期変更について（当該年度及び次年度） ・非常勤講師の委嘱・変更・取消について（当該年度及び次年度） ・専任教員の新規担当科目について（当該年度及び次年度） ・特別講師の委嘱について（当該年度及び次年度） ・実習指導教員の委嘱、変更について　（当該年度及び次年度） ・授業アシスタントの委嘱について（当該年度及び次年度） ・次年度学事暦及び変更について ・次次年度（2014）学事暦（案）について ・教務委員会活動計画・予算について（当該年度及び次年度） ・教務委員会目標年間計画について ・学生による授業評価アンケートについて（当該年度及び次年度以降） ・「統計検定」及び「TOEIC test」による単位認定について ・教養教育科目の卒業所要単位の表記について ・専任教員の新規授業科目担当及び非常勤講師の採用の審査に関する申し合せの改正について ・履修規程の一部改正について ・教職課程委員会規程の一部改正について ・履修登録者がいない場合、少ない場合（履修者数の下限設定）の対応について ・試験・評価日程について（前期及び後期） ・前期定期試験・評価日程の特例対応について ・前期追・再試験監督担当学科について（前期及び後期） ・定期試験時間割について（前期及び後期） ・再試験受験願の未手続者の取扱いについて ・次年度時間割編成のガイドライン・編成条件について ・次年度　前期第 1 回目の授業の教科書使用について ・GPA 制度について ・次年度開設科目の英語名称について ・非常勤講師及び特別講師の委嘱手続受付期間について ・学校保健安全法施行規則改正による出校停止期間について ・北海道薬科大学連携セミナー夕張における共同体験学習について	

・出会いと親睦のゼミ・新入生オリエンテーション・履修届・講師会等の評価
・次年度出会いと親睦のゼミについて
・次年度新入生オリエンテーションについて
・講師会について（当該年度及び次年度）
・教務委員会開催日程について
・教育課程の検討について
・認証評価の指摘事項改善の取り組みについて
・次年度予算について
・次年度時間割について
・次年度アッセンブリーアワー利用について

［主な報告事項］
・出会いと親睦のゼミについて
・講師会について
・2011 年度授業評価報告書の作成について
・2011 年度教務委員会活動報告書の作成について
・病態・治療学Ⅰの試験評価日程について
・前期土曜開講日について（前期及び後期）
・教職課程履修登録者及び取消者について
・北海道薬科大学との連携事業　夕張における共同体験学習セミナーについて
・履修登録遅延者対応について
・履修登録数、聴講届、他学科履修について（前期及び後期）
・次年度時間割編成等に向けた作業行程について
・教室パソコンの入替について
・授業評価アンケート結果について（前期及び後期）
・前期定期試験に関する事項について
・授業内試験について
・復学者の科目履修について
・休学の取り下げについて
・私大協教務部課長相当者研修会の参加及び報告
・保証人への成績通知書の送付について
・講師会開催日程について
・教職総合演習の土曜開講について
・次年度入学前教育について報告
・次年度「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」の習熟、中級、基礎の担当者変更について
・次年度新看 4 対象の到達度テストの実施について
・統計処理Ⅰの補講について
・総合演習Ⅱの出校停止による追試験について

2012 年度　学生委員会活動報告

委員会組織	委員長：山部秀子 委　員：柴田和恵、木津由美子、金澤康子、岩渕絵里子、川口雄一
委員会開催数	11 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2012 年度活動計画・役割分担について
・委員長不在時の委員長代理について
・2012 年度海外研修実施について
・2013 年度、2014 年度以降の海外研修実施について
・学生委員会担当行事関係について
・学生への危機管理・啓発方法（個人情報管理・清掃・盗難）等の検討について
・学生への経済的支援（新規奨学金）について
・天使大学学生生活についての調査報告書・別冊の作成について
・教職員による禁煙サポーターのあり方について
・2013 年度予算案作成について
・2013 年度学校医（精神科医）の委嘱について
・2013 年度アッセンブリー・アワープログラム（案）について
・2012 年度自己点検評価について
・B 型肝炎ワクチン実施、2013 年度風疹抗体検査について
・2013 年度「健康便り」新規内容について
・休学の学生に対するメンタル面でのサポートと関係各部署との連携について
・その他

［主な報告事項］

・2011 年度海外研修報告実施について
・2012 年度、2013 年度以降の海外研修進捗状況について
・天使大学学生生活についての調査報告書・別冊の発行について
・学生委員会行事関係進捗状況について
・葦の会関係進捗状況・実施について
・オフィスアワーについて
・「ぴあの会」関係進捗状況・実施について
・天使大学給付奨学金の追加募集について
・教職員禁煙サポーターについて
・2012 年度危機管理マニュアルについて
・学生への危機管理・啓発方法（個人情報管理・清掃・盗難）等について
・2013 年度学生生活ガイドブックの校正について
・2013 年度ホームページ進捗状況について
・2013 年度予算ヒアリングについて
・保健相談室関係進捗状況・月別報告について・
・学生相談室関係進捗状況・月別報告について
・2011 年度学生相談室・保健相談室活動報告書発行について
・第 1・2 回「健康管理運営委員会」開催について
・その他

2012 年度　宗務委員会活動報告

委員会組織	委員長：沢禮子 委　員：ケン スレイマン、岡部哲子、松下真美、小原琢、今崎裕子 白石澄枝、菊池史恵
委員会開催数	10 回

審議・報告事項

【主な審議事項】

・2012 年度イースターについて
・2012 年度行事担当者役割
・2012 年度教職員修養会について
・2012 年度予算確認
・2012 年度イースターの集いの反省
・2012 年度行事担当者役割
・後期ミサ日程について
・毎週のミサにクラス毎の意向を入れることについて
・聖書購読クラスについて
・前期修了卒業感謝ミサについて
・死者追悼ミサについて
・2013 年度予算編成方針
・クリスマスのミサについて
・アッセンブリー・アワーの実施計画案について
・クリスマスの集いの反省について
・修了・卒業感謝ミサについて
・教職員退職感謝ミサについて

【主な報告事項】

・カトリックセンター会議報告
・灰の儀式について
・2013 年度予算について
・アッセンブリ・アワー年間予定表について

２０１２年度　図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：大久保岩男 委　員：久賀久美子、 鹿内あずさ、 勝野由美子、 長谷川めぐみ、目時光紀、 宮本涼子、 平野敦子
委員会開催数	10 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・情報機能整備計画(サーバシステムの更新、授業支援システムの導入、TV 会議システム Live On の利用、情報処理室 PC120 台の更新、学生用無線 LAN 域設定)の実施について

・図書館システム LIMEDIO の追加サーバ(Linux 対応)の導入について

・後援会助成図書の選定について

・図書の除籍・譲渡・廃棄について

・図書館開閉館予定表について

・学生委員会からの緊急連絡網整備に関する支援について

・図書館平日の開館時間延長幅見直し及び開館時間の短縮について

・村田文庫の取り扱いについて

・新規購入雑誌及び加除式資料の選定並びに雑誌の購読打ち切りについて

・雑誌の継続購読及び電子ジャーナルへの切り替えについて

・受贈図書の選定について

・「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」及び「メディカルオンライン」の無料トライアルと購入選定について

・道新縮刷版の冊子体から DVD 版への変更、Journal Citation Reports 及び Web of Science の購入について

・2013 年度活動計画及び予算、図書資料費予算配分案について

・2013 年度から提供の図書館新規サービスについて(図書館内での持込パソコンの利用、天使祭一般開放など)

・無断持ち出し図書への対応について

・情報処理室利用に関するアンケート調査の実施について(2013 年度)

・2012 年度年報原稿(案)について：図書館・情報処理システム・図書情報委員会活動報告など

［主な報告事項］

・図書資料費執行状況について

・情報機能整備に関する工事、年度末の図書館システム追加サーバ導入及び図書移動作業等の案内について

・情報処理室開閉室予定表について

・情報処理室導入授業支援システムの操作説明会について

・情報処理プリンタ室の使用方法について

・図書館関係施設(ロッカー等)での紛失・盗難への対応について

２０１２年度　入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：荒川義人 委　員：前田明子、田島忠篤、長谷川真澄、西隆司、照井省吾（～2013 年 2 月）、佐保末男（2013 年 3 月～）
委員会開催数	15 回

審議・報告事項

［主な審議事項］
- 2012 年度 入試委員会活動計画
- 栄養学科 推薦入学試験・一般入学試験の定員の変更について
- 学生募集要項（学部・指定校推薦・栄養学科編入学試験）について
- 一般入学試験出題者について
- 個人面接の評価基準について
- 個人面接試験研修会について
- 小論文試験の評価基準について
- 一般入試学科試験の得点調整について
- 指定校推薦入学者の評価方法について
- 新学習指導要領に対応した一般入試・センター利用入試の「理科・数学」の出題範囲について
- 「採点業務の省力化」に向けた改善について
- 東日本大震災に被災した受験者への対応について
- 公募制推薦・社会人入試の小論文試験問題について
- 2013 年度 大学入試センター試験について
- 大学入試センター試験「藤女子大学試験場」の監督者等の分担について
- 2013 年度 推薦入学試験、社会人入学試験、栄養学科編入学試験について
- 2013 年度一般入学試験・センター利用入学試験について
- 合否判定基準について
- 2013 年度推薦入試、社会人入試、栄養学科編入学試験　合否判定について
- 2013 年度一般入学試験栄養学科合否判定について
- 2013 年度一般入学試験看護学科合否判定について
- 2013 年度センター利用入学試験（看護学科・栄養学科）合否判定について
- 2013 年度入試委員会 活動計画について
- 2013 年度入試委員会予算について
- 2014 年度 入試日程について
- 入試に関する「不測の事態」等の危機管理体制について
- 一般入試看護学科面接試験受験者インフルエンザ罹患に対する対応について
- 2012 年度入試委員会 活動計画に対する点検評価について
- 2013 年度推薦入試、社会人入試、栄養学科編入学試験の点検評価について
- 2013 年度一般入試、センター利用入試、大学入試センター試験の点検評価について
- 2012 年度 年報（入試委員会関係部分）について

［主な報告事項］
- 2012 年度入試問題の著作権処理について
- 天使大学入学試験問題集について
- 天使大学入学試験問題作成委員（一般入試）と第三者点検者による合同入学試験問題検討会について

２０１２年度　広報委員会活動報告

委員会組織	委員長：鈴木純子 委　員：吉田礼維子、鳥谷めぐみ、勝野由美子、吉田真弓、堀井泰明、 津田万寿美、照井省吾（～2013 年 2 月）、佐保末男（2013 年 3 月～）
委員会開催数	8 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2012年度広報委員会活動方針（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について
・2012年度学生募集（進学相談会、校内ガイダンス、高校訪問等）について
・2012年度広報活動のための学内勉強会について
・2012年度出張講義・校内ガイダンスについて
・2012年度オープンキャンパスについて
・大学紹介DVDについて
・Webサイトのリニューアルについて
・学報「天使」について
・2014年度大学案内パンフレットについて
・2013年度助産研究科パンフレットについて
・志願促進DMについて
・クリスマスカードについて
・オープンキャンパスちらし・ポスターについて
・2012年度 広報委員会 各担当の評価報告について
・2013年度 広報委員会活動計画書（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について
・2013年度 広報委員会予算（学部・看護栄養学研究科・助産研究科）について
・2013年度 オープンキャンパス日程について
・助産研究科・看護栄養学研究科　合同ちらしについて
・新入生アンケートについて
・2012年度 年報（広報委員会関係部分）について
・助産　認証評価報告書（入学者選抜）について

［主な報告事項］

・新入生アンケートについて
・在学生の肖像権について
・高校訪問の手引きについて
・助産研究科 大学訪問について
・助産研究科 広告出稿について

２０１２年度　自己点検評価委員会活動報告

委員会組織	委員長：茎津智子 委　員：園生陽子、大久保岩男、前田明子、荒川義人、田島忠篤、小島悦子、西隆司、久保則雄（～2013 年 12 月）、佐保末男（2013 年 1 月～）
委員会開催数	11 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2012 年度活動方針・活動内容について
・2011 年度年報の作成について
・自己点検評価の今後のあり方について
・大学評価（認証評価）結果における課題への取り組みについて
・2011 年度大学評価説明会について
・2012 年度年報の作成について
・2012 年度年報に係る説明会の開催について
・2012 年度年報に係る報告会の開催について
・2012 年度の点検評価および今後の課題について
・2013 年度活動計画および予算について

［主な報告事項］

・大学評価（認証評価）結果についての職員への報告について
・2011 年度年報の進捗状況について
・助産研究科の 2011 年度年報作成について
・助産研究科の認証評価の進捗状況について

２０１２年度　ＦＤ委員会活動報告

委員会組織	委員長：田島忠篤 委　員：北村育子、佐藤香苗、小原 琢、本宿美砂子
委員会開催数	12 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2012 年度 FD 委員会の活動方針と活動内容について

・FD 研修会の開催について

・授業アンケートの取扱いについて

・授業評価アンケートに基づく個人評価結果の対応について

・2011 年度 FD・SD 研修会テーマ「ポートフォリオ」の追跡調査について

・教務委員会からの要望事項について

・2013 年度活動計画及び予算について

・2012 年度の点検評価および今後の課題について

［主な報告事項］

・2012 年度授業評価アンケート結果の活用について

・授業アンケート結果が著しく芳しくない教員の対応について

・2011 年度年報の作成について

・2011 年度授業評価アンケート結果の集計について

２０１２年度　学術振興委員会活動報告

委員会組織	委員長：高島郁夫 委　員：森谷絜、平山惠美子、小原琢、島明子
委員会開催数	10 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・天使大学紀要第 13 巻第 1 号及び第 2 号の原稿募集、査読、掲載採否について

・アンケート調査結果等に基づく紀要の学内用冊子体作製について

・新任教員、紀要執筆者並びに特別研究費取得者による研究報告会の定例(年 2 回)開催について

・若手研究者の育成、特に助手の待遇改善等について(継続)

・外部研究資金獲得のための講演会の開催について

・2013 年度活動計画及び予算について

・後期研究報告会のアンケート結果について(反省)

・次年度の追加課題：機関リポジトリ掲載の研究情報について

［主な報告事項］

・天使大学紀要第 12 巻の発刊及び CiNii 掲載(電子化・公開)について

・天使大学紀要第 13 巻第 1 号及び第 2 号の原稿募集について

・天使大学紀要第 13 巻第 1 号及び第 2 号への投稿申込状況、査読、CiNii 掲載(電子化・公開)について

・2013 年度天使大学紀要第 14 巻第 1 号の原稿募集について

・日本私立学校振興・共済事業団による第 38 回学術研究振興資金への応募について

・投稿規程等の改正について

・リサーチ・アドミニストレーター入門セミナーの出張報告

・研究報告会等の案内及びアンケートについて

2012 年度　地域連携等委員会活動報告

委員会組織	委員長：山口敦子 委　員：針金佳代子・岡部哲子・川口雄一・津田万寿美
委員会開催数	11 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・2012 年度地域連携等委員会活動計画について
・2012 年度地域連携等委員会役割分担について
・第 13 回（2012 年度）天使大学・北海道薬科大学連携公開講座（運営）について
・2013 年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座（企画）について
・2013 年度助産研究科公開講座の実施方針等について
・2013 年度予算（案）について
・2012 年度自己点検評価について
・東区役所との連携事業関係について
・平成 25 年度道民カレッジ「ほっかいどう学」大学放送講座の参加について
・その他

［主な報告事項］

・2012 年度予算について
・第 13 回（2012 年度）天使大学・北海道薬科大学連携公開講座進捗状況について
・北海道薬科大学との会議（公開講座）について
・北海道薬科大学との連携：夕張市地域医療関係の学生ボランティア参加者の把握について
・北海道薬科大学への非常勤講師派遣の把握について
・助産研究科公開講座進捗状況について
・東区役所との連携事業関係について
・本学と東区役所との連携事業活動報告書（７事業）について
・2013 年度予算ヒアリング結果について
・平成 25 年度道民カレッジ連携講座前期分申込、名義後援願について
・その他

2012 年度　就職委員会活動報告

委員会組織	委員長：瀧　断子 委　員：瀧断子、草薙美穂、菅原千鶴子、百々瀬いづみ、相内泰三、今崎裕子 事務局：学務課　堀切俊介　就職相談室　櫻澤倫子
委員会開催数	11 回

審議・報告事項

【主な審議事項】

・2012 年度活動計画の確認について
・2012 年度役割分担について
・2012 年度就職ガイダンス確認
・就職開拓グッズ作成の確認（ボールペン・クリアフォルダ）
・就職礼状について
・就職事務処理確認
・2012 年度重要課題について
　看護学科：病院連携の提案を受けての基本方針の検討
　栄養学科：管理栄養士の需要と供給の状況の把握から、学科の就職基本方針の検討
・就職相談室ニュースについて
・2013 年度公務員試験について
・就職相談週間について
・2012 年度後期就職ガイダンス業者について
・予算の流用について
・出張関連参加者確認
・栄養士職求人依頼の送付について
・2013 年度ガイダンス方針（学務課）
・就職支援に関するアンケートについて
・2013 年度就職ガイドブック編集
・2013 年度就職委員会予算について
・2013 年度就職開拓グッズについて（大学広報を兼ね就職用大学案内を作成）
・2013 年度予算ヒヤリングの報告及び検討事項
・卒後教育について

【主な報告事項】

・2012 年度予算についての確認

・会議・セミナー報告

・就職相談室報告及び 2011 年度卒業生就職状況

・就職礼状発送報告

・ガイダンス報告

・就職相談室ニュースの父母懇談会への配布について

・看護学科 2012 年度重要課題への対応

・調剤薬局からの管理栄養士の求人票について

・栄養学科公務員試験結果報告（相内委員）

・抜粋パンフレット作成費用について

・クリスマスカードの発送について（過去 3 年分の就職先のリストを提出）

・2013 年度予算案提出報告

・就職未内定者への卒業後の情報提供のためのアドレス登録について

２０１２年度　教職課程委員会活動報告

委員会組織	委員長：伊藤進 委　員：山部秀子・相内泰三・菅原千鶴子・百々瀬いづみ
委員会開催数	5回

審議・報告事項

［主な審議事項］

修了判定について

栄養教育実習履修判定について

教職実践演習について

教職総合演習について

学生面談の日程・役割分担について

履修カルテについて

自己評価シート票の改善について

2013年度教職課程科目担当者について

2013年度非常勤講師の依頼について

2013年度特別講師について

2013年度予算について

2013年度教職課程履修の手引きについて

2013年度科目等履修生の受け入れについて

2013年度新入生オリエンテーション担当者について

2013年度履修相談の担当者について

２０１２年度　研究倫理委員会活動報告

委員会組織	委員長：堀井泰明 委　員：園生陽子、大久保岩男、斉藤昌之、茎津智子、鈴木純子
委員会開催数	8回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・書類提出締切日、委員会開催日について

・研究審査申請書審査について（審査件数 30 件）

・「利益相反自己申告書」の提出について

［主な報告事項］

・栄養学科卒業研究に関わる研究審査について（審査件数 11 件）

・「臨床研究に関する倫理指針」の周知徹底について

２０１２年度　衛生委員会活動報告

委員会組織	委員長：丸山知子 委　員：樟本賢首、久川陽子、勝野由美子、川口雄一
委員会開催数	3回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・副委員長の選出について

・校内定期巡回について

・インフルエンザ予防接種・乳がん検診について

［主な報告事項］

・定期健康診断結果について

・校内定期巡回結果（２回）について

２０１２年度　キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

委員会組織	委員長：須藤桃代 委　員：山部秀子、伊藤進、平山惠美子、佐保末男、平野敦子
委員会開催数	6 回

審議・報告事項

［主な審議事項］

・ガイドラインの作成について

・相談員マニュアルの作成について

・講演会について

・学生委員の募集について

・2013 年度活動計画および予算について

［主な報告事項］

・規程の改正について

・新入生オリエンテーションについて

・ガイドラインの配布について

・学生委員の募集について

XIV.図書館の利用状況

2012年度入館者統計(人数)

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,174	1,367	1,500	1,735	990	1,153	1,522	1,700	1,551	1,019	341	80	14,132
栄養学科	726	895	891	1,296	496	536	904	916	547	587	387	188	8,369
助産研究科	140	105	107	38	71	68	120	92	45	24	19	14	843
看護学専攻	42	69	47	28	18	15	29	27	25	34	25	31	390
栄養管理学専攻	12	2	8	8	3	3	0	5	1	1	0	0	43
科目等履修生	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
教職員	144	192	185	198	167	170	187	163	140	96	95	76	1,813
学外者	55	55	89	61	70	71	49	35	16	21	29	18	569
合計	2,293	2,685	2,827	3,365	1,815	2,016	2,811	2,938	2,326	1,782	896	407	26,161

2012年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	884	1,012	991	921	844	1,225	1,231	1,004	871	358	182	81	9,604
栄養学科	612	803	751	728	274	314	475	599	398	209	178	31	5,372
助産研究科	107	166	163	59	141	86	99	175	75	25	29	26	1,151
看護学専攻	70	86	81	34	36	16	42	55	36	42	33	22	553
栄養管理学専攻	3	3	0	15	5	3	3	5	0	0	0	0	37
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	233	238	221	152	167	194	222	230	129	137	84	80	2,087
学外者	18	10	13	6	14	5	0	0	5	7	4	0	82
合計	1,927	2,318	2,220	1,915	1,481	1,843	2,072	2,068	1,514	778	510	240	18,886

XV.情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 / 室	看護学科				看護小計	栄養学科				栄養小計	各室計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	376	682	1,165	832	3,055	630	3,371	2,624	1,363	7,988	11,043
4301室(夜間)	65	104	216	228	613	83	169	370	167	789	1,402
4302室(日中)	2,230	1,261	2,255	1,161	6,907	2,629	1,267	2,346	1,690	7,932	14,839
4302室(夜間)	155	156	214	187	712	174	136	296	228	834	1,546
総　計	2,826	2,203	3,850	2,408	11,287	3,516	4,943	5,636	3,448	17,543	28,830

月別学科学年利用状況

学科・学年 / 月	看護学科				看護小計	栄養学科				栄養小計	各室計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	38	15	33	57	143	12	15	60	36	123	266
5	72	36	44	60	212	145	27	115	51	338	550
6	84	31	57	66	238	86	44	66	58	254	492
7	49	30	72	66	217	65	18	60	55	198	415
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	388	169	327	468	1,352	389	466	1,239	659	2,753	4,105
10	654	579	297	260	1,790	774	757	1,213	924	3,668	5,458
11	641	340	1,104	758	2,843	788	1,109	812	845	3,554	6,397
12	372	469	996	484	2,321	585	932	862	664	3,043	5,364
1	402	491	828	137	1,858	581	1,442	1,039	89	3,151	5,009
2	123	38	69	31	261	82	129	128	50	389	650
3	3	5	23	21	52	9	4	42	17	72	124
総　計	2,826	2,203	3,850	2,408	11,287	3,516	4,943	5,636	3,448	17,543	28,830

XVI. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比　　（単位：㎡）

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差（基準外を除く）
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976（S51）	35	937.76	2階建
2号館	1995（H 7）	16	707.43	2階建（耐震構造）
3号館	1963（S38）	48	1,977.01	3階建（耐震補強済）
4号館	1971（S46）	40	2,429.06	3階建（耐震補強済）
5号館	1980（S55）	31	396.27	2階建
6号館	2000（H12）	11	2,674.91	6階建（耐震構造）
7号館	2002（H14）	9	2,330.13	4階建（耐震構造）
8号館	2004（H 7）	7	1,855.69	4階建（耐震構造）
体育館	1976（S51）	35	736.52	
中沼ｸﾞﾗﾝﾄﾞ更衣室	1992（H 4）	19	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	754	2.01	看護栄養学研究科と共用
	演習室	12	345	共用	221	805	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	754	0.38	
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	2	272	共用	92	11	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	51	4.45	
	学生学習室	1	246	共用	82	62	3.96	看護栄養学研究科と共用
体　育　館		1	737					
講　堂		1	737					

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分　　類	室　　名	収容人数	面積(㎡)	1人当り面積(㎡)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	257	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,477	3.32

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分　　類	室数	総面積 (㎡)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積(㎡)	使用研究科等	備考
実習室	19	2,477	747	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	20	2,651	787	3.37	—	—

Ⅻ. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表　　(%)

	比率	算式	2012年度	他法人
1	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	72.6	75.7
2	流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	27.4	24.3
3	固定負債構成比率	固定負債 / 総資金	5.0	6.9
4	流動負債構成比率	流動負債 / 総資金	11.9	10.7
5	自己資金構成比率	自己資産 / 総資金	83.1	82.4
6	消費収支差額構成比率	消費収支差額 / 総資金	4.2	△13.0
7	※ 内部留保資産比率	内部留保資産 / 総資産	40.2	16.5
8	固定比率	固定資産 / 自己資金	87.4	91.8
9	固定長期適合率	固定資産 / 自己資金+固定負債	82.4	84.8
10	流動比率	流動資産 / 流動負債	229.8	226.4
11	総負債比率	総負債 / 総資産	16.9	17.6
12	負債比率	総負債 / 自己資金	20.3	21.4
13	前受金保有率	現金預金 / 前受金	242.2	258.4
14	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) / 退職給与引当金	81.5	69.8
15	基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	99.4	96.9
16	減価償却比率	減価償却累計額(図書を除く) / 減価償却資産取得価格(図書を除く)	49.3	47.6

※内部留保資産=その他の固定資産　＋　流動資産　―　総負債

(注)「他法人」は日本私立学校・共済事業団の「今日の私学財政」2012年度版による。

消費収支計算書関係の財務比率表　　(%)

	比率	算式	2012年度	他法人
1	人件費比率	人　件　費 帰属収入	61.5	55.9
2	人件費依存率	人　件　費 学生生徒等納付金	81.2	70.2
3	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	23.2	26.8
4	管理経費比率	管理経費 帰属収入	4.5	11.1
5	借入金等利息比率	借入金等利息 帰属収入	0.0	0.4
6	消費支出比率	消費支出 帰属収入	10.6	4.2
7	帰属収支差額構成比率	帰属収入　－　消費支出 帰属収入	89.4	98.8
8	消費収支比率	消費支出 消費収入	98.1	107.4
9	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 帰属収入	75.8	79.7
10	寄付金比率	寄付金 帰属収入	0.9	1.4
11	補助金比率	補助金 帰属収入	15.7	11.4
12	基本金組入率	基本金組入額 帰属収入	10.3	10.7
13	減価償却費比率	減価償却額 消費支出	7.6	10.9

編集後記

天使大学看護栄養学部年報 2012 年度版が発行となりました。2012 年は自己点検評価委員会においても前年度の認証評価を受け、大学の自己点検活動のあり方を検討しました。その結果、まずは年報の構成・内容の見直しを図り、年度末の評価から次年度への改善、改革が明確になるものであることを目指した年報作りに取り組みました。さらに新たな試みとして年度末には、各委員会の年度末評価の報告会および意見交換の場を自己点検評価委員会として企画しました。これらは、教育研究活動を実践している教職員が、お互いの活動を可視化できるシステムを構築することで、大学として何を目指し、何を現状分析し、そして改善策の検討、実施という自己点検評価活動を意味あるものとすることを目指した取り組みといえます。2012 年度版からの改正年報、および自己点検評価活動等について、忌憚のないご意見を是非、自己点検評価委員会へお寄せください。今後も教職員の皆様と共に考え、そして共に取り組む自己点検評価活動でありたいと思います。

今後もご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2013 年 9 月

自己点検評価委員会委員長　茎津　智子

2012 年度　自己点検評価委員会

委員長：茎津　智子（看護学科）
委　員：大久保岩男（看護栄養学研究科長）
園生　陽子（助産研究科長）
前田　明子（看護学科長）
荒川　義人（栄養学科長）
田島　忠篤（教養教育科長）
久保　則雄（事務局長）
佐保　末男（事務局長）
小島　悦子（看護学科）
西　　隆司（栄養学科）
総務課：照井　省吾
高山　美香

２０１２年度

天使大学看護栄養学部
天使大学大学院看護栄養学研究科

年　報
－自己点検・評価報告書－

2013 年 9 月発行
自己点検評価委員会

天使大学
〒065-0013 北海道札幌市東区北 13 条東 3 丁目 1 番 30 号
TEL 011-741-1051　FAX 011-741-1077
http://www.tenshi.ac.jp